

2015 年春季年会

年会プログラム

於 大阪大学

2015 年 3 月 18 日 (水) ~ 3 月 21 日 (土)

日 本 天 文 学 会

日本天文学会 2015 年春季年会プログラム

期 日 2015年3月18日(水)～3月21日(土)

場 所 大阪大学豊中キャンパス(大阪府豊中市)

電 話 090-4387-6893 <使用期間 2015年3月17日(火)～3月21日(土)>

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
3月18日 (水)	A	受付			受付		R. 銀 河	特別セッション (A会場)		天文教育 フォーラム (A会場)		理 事 会
	B						J2. 高密度星					
	C						N. 恒 星					
	D						M. 太 陽					
	E						T. 銀 河 団					
	F						L. 太 陽 系					
	G						P1. 星・惑星					
	H						K. 超新星爆発					
	I						V1. 地 上 観					
3月19日 (木)	A	受付	R. 銀 河	昼休み (代議員総会)	ポスター		A. 分子雲衝突	会員全体集会 (J会場)	受賞記念講演 (J会場)			
	B		J2./J1. 高密度星									
	C		N. 恒 星									
	D		M. 太 陽									
	E		U. 宇 宙 論									
	F		Y. 教育・他									
	G		P1. 星・惑星									
	H		K. 超新星爆発/W2. 飛翔観									
	I		V1. 地 上 観									
3月20日 (金)	A	受付	A. 分子雲衝突	昼休み	ポスター		B. H S C	特別 セッション (A会場)		懇親会		
	B		J1. 高密度星									
	C		Q. 星間現象									
	D		M. 太 陽									
	E		X. 銀河形成									
	F		S. 活動銀河核									
	G		P2. 星・惑星									
	H		W1. 飛翔観									
	I		V2. 地 上 観									
3月21日 (土)	A	受付	B. H S C	ポスター	昼休み							
	B		J1. 高密度星									
	C		Q. 星間現象									
	D		M. 太 陽									
	E		X. 銀河形成									
	F		S. 活動銀河核									
	G		P2. 星・惑星									
	H		W1. 飛翔観									
	I		V2. 地 上 観									
	J		ジュニアセッション									

A会場 : B棟1F(大講義室)

B会場 : B棟1F(B107)

C会場 : B棟1F(B108)

D会場 : B棟1F(B118)

E会場 : B棟2F(B207)

F会場 : B棟2F(B208)

G会場 : B棟2F(B218)

H会場 : A棟2F(A201)

I会場 : B棟3F(B307)

J会場 : 大学会館講堂

受 付 : A棟1F(A103及びピロティ)

ポスター会場 : 第二体育館

展示コーナー : 第二体育館

会 議 室 : A棟2F(A203)

懇 親 会 : カフェテリアらふおれ

◎講演数

講演数：合計 677

(口頭講演 (a)：465、ポスター講演 (b)：155、ポスター講演 (c)：57)

◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2011年秋季年会より、講演登録費は、講演申込時にお支払いいただく事になっています。

○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
(但し講演ありの場合、参加費は無料)		
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税)	10,000 円 (消費税込み) (1 講演につき)
(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円、非会員 11,000 円)		
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み)	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：受付 A 棟 1F (A103 及びピロティ)

○参加登録受付時間：3月18日 11:00～16:00

3月19日 09:00～16:00

3月20日 09:00～16:00

3月21日 09:00～13:30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は 10 会場で並行して行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表 (添字 b)、(添字 c) は、3月18日の 12:00 から 3月21日の 13:00 までポスター会場の指定された場所に掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦 180 cm×横 90 cm です。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前に PC の接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中に PC を接続しておいてください。

◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
3月18日 (水)	15:15 ~ 17:15	A 会場	ASTRO-H 特別セッション
	17:30 ~ 19:00	A 会場	天文教育フォーラム
3月19日 (木)	15:45 ~ 16:45	J 会場	会員全体集会
	16:45 ~ 18:15	J 会場	受賞記念講演
3月20日 (金)	15:45 ~ 16:45	A 会場	東アジア天文台構想 特別セッション
	17:15 ~	カフェテリアらふおれ	懇親会
3月21日 (土)	18:00 ~ 20:30	大阪市立科学館 プラネタリウムホール	公開講演会

◎会合一覧表

月 日	時 間	会 場	会 合 名	一般参加可否
3月18日 (水)	19:15 ~ 20:15	会議室	理事会	D
3月19日 (木)	11:30 ~ 12:30	D 会場	代議員総会	D
	11:30 ~ 12:30	E 会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
	11:30 ~ 12:30	F 会場	宇宙電波懇談会総会	C
3月20日 (金)	11:30 ~ 12:30	B 会場	年会実行委員会	D
	11:30 ~ 12:30	C 会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30 ~ 12:30	D 会場	「あかり」データ一般公開説明会	A
	11:30 ~ 12:30	E 会場	日本 SKA コンソーシアム会合	B
	11:30 ~ 12:30	G 会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B

※一般参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けのものだが部外者も特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした非公開の会合

◎ ASTRO-H 特別セッション：ASTRO-H が拓くサイエンス

日 時：2015年3月18日(水) 15:15～17:15

場 所：A会場

概 要：ASTRO-Hは、日本で6番目の国際X線天文台です。マイクロカロリメータによる超精密分光($E/\Delta E \sim 1000$)や0.3～600 keVの3桁以上もの広帯域での高感度観測が可能となります。銀河団、超新星残骸、ブラックホール近傍などの高温ガスの運動や、非熱的な放射を高感度でとらえることで、宇宙の進化に対する理解が大きく進展すると期待されています。

ASTRO-Hの製作は、国内外のメンバー、担当メーカーの努力により順調に進んでいます。打ち上げは2015年度、そして打上後すぐに観測提案の公募が始まる予定です。天文コミュニティのみなさまにその性能を十分に理解していただき、様々な波長域の観測や理論との連携について議論を進めることを目的に、若手による講演中心の特別セッションを企画しました。

プログラム：1. ASTRO-H 計画の概要 高橋忠幸 (JAXA/ISAS)
 2. ASTRO-H の目指すサイエンス
 (1) ブラックホール 山田真也 (首都大東京)
 (2) 超新星残骸 勝田 哲 (JAXA/ISAS)
 (3) 銀河団 田村隆幸 (JAXA/ISAS)
 3. ASTRO-H への期待 吉田道利 (広島大)

世 話 人：嶺重 慎 (京都大、代表)、大橋隆哉 (首都大東京)、高橋忠幸 (JAXA/ISAS)、北山 哲 (東邦大)、松下恭子 (東京理科大)

◎天文教育フォーラム：トランス・サイエンス時代の天文学

共催：天文教育普及研究会 後援：日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会

日 時：2015年3月18日(水) 17:30～19:00

場 所：A会場

概 要：「科学に問うことはできるが、科学(だけ)では答えることのできない」領域を、トランス・サイエンスと呼びます。例えば牛海綿状脳症(BSE)や原発事故など、社会と科学・技術が重なる領域にある諸課題が、トランス・サイエンス的課題です。これらのトランス・サイエンス的課題が登場してきた背景には、科学の急速な発展と、人々の生活の科学・技術への依存度の高まりがあります。トランス・サイエンス的な課題は時代を反映した、未解決の先端課題であると言えるでしょう。

このような時代背景は、他の科学分野でも共通するものです。天文学分野においても、現代が急速な発展の時代にあることは間違いありません。同時に、天文教育普及分野の活動も活発になり、人々の生活に近い場所へ天文学が普及しつつあります。天文学が社会に浸透し、人々の生活に根ざせば根ざすほど、両者の重なる領域は拡大し、トランス・サイエンス的な領域が天文学分野でも発生することもあり得ます。

今回の天文教育フォーラムでは、トランス・サイエンスとはどのような概念であるのか、その考え方が登場した経緯や、そこから生み出される問いを俯瞰し、その上で、一見すると人々の生活からは遠くにあると思われる天文学分野において、トランス・サイエンス的な課題が設定されうるのかを検討し、それを踏まえた天文教育普及のあり方を議論したいと思います。

登壇者：磯部洋明氏 (京都大学 宇宙総合学研究ユニット 特定准教授)
 小林傳司氏 (大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター 教授)
 海部宣男氏 (国立天文台 元台長 / 国際天文学連合 会長)

費 用：天文教育フォーラムのみの参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

実行委員：高梨直紘 (東京大学)、篠原秀雄 (埼玉県立蕨高等学校)、谷川智康 (兵庫県立三田祥雲館高等学校)、塚田 健 (平塚市博物館)、安藤享平 (郡山市ふれあい科学館)、石井貴子 (京都大学)、大山真満 (滋賀大学)

◎東アジア天文台構想特別セッション：現状と今後

日 時：2015年3月20日（金）15：45～16：45

場 所：A会場

概 要：2005年9月に、東アジア各地域を代表する中核天文台である、中国科学院国家天文台（中国）、自然科学研究機構国立天文台（日本）、韓国天文宇宙科学研究所（韓国）、台湾中央研究院天文及天文物理研究所（台湾）の4機関を構成員とする EACOA が組織された。EACOA ではこの10年間研究会の開催や EACOA フェローの設立など、様々な活動を行ってきたが、東アジア各地域の天文学の飛躍的な発展を背景に、2014年9月には、東アジア天文台（EAO）を設立するに至った。EAO の目標は東アジア各地域のリソースを一つにまとめ、東アジア主導で大型の観測天文施設を建設することにある。

特別セッションでは、EAO 初代台長である Paul Ho を招き、EAO 構想の現状と今後について議論をする予定である。

世 話 人：林 正彦（国立天文台）、大西利和（大阪府立大） 大橋永芳（国立天文台）

◎日本天文学会公開講演会

テ ー マ：プラネタリウムと天文学のタベ

日 時：2015年3月21日（土・祝）18:00-20:30（開場 17:30）

場 所：大阪市立科学館プラネタリウムホール

対 象：概ね高校生以上を対象とした内容ですが、申し込み登録いただければどなたでも参加いただけます。

概 要：1937年に日本ではじめてのプラネタリウムが導入されたことからわかるように、大阪は古くから宇宙に関心の高い土地です。今回、大阪市立科学館と共催で、同館の施設を利用し、プラネタリウム投影を交えた天文講演会を開催します。講演前半は、太陽系内外の惑星の形成に関するお話です。最新の観測装置で探る惑星誕生の現場と、隕石の分析から明らかにされる太陽系の歴史を紹介します。後半は宇宙に多数存在するブラックホールの成長と宇宙の歴史に関するお話です。

内 容：講演1：「最新観測装置で迫る、系外惑星の誕生」

講 師：深川美里（大阪大学 理学研究科・助教）

講演2：「隕石から探る太陽系の歴史」

講 師：寺田健太郎（大阪大学 理学研究科・教授）

講演3：「宇宙はなぜブラックホールを造ったのか？」

講 師：谷口義明（愛媛大学 宇宙進化研究センター長・教授）

申し込み登録：入場無料ですが、事前にインターネット経由で申し込みください。申し込みサイトは、大阪市立科学館ホームページ (<http://www.sci-museum.jp/>) 及び天文学会2015年春季年会開催地ページ (<http://vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp/asj2015a/index.html>) で案内いたします。2015年2月10日より受付を開始し、定員300名に達した段階で受付を終了させていただきます。

春季年会会場 大阪大学豊中キャンパスのご案内



講演会場、受付はキャンパス北部、全学教育推進機構の建物です。石橋門が最寄りの出入り口となります。

会場へのアクセス

JR 大阪駅、阪急梅田駅から：

阪急電車宝塚線に乗り石橋駅（特急・急行も停車）で下車 東へ（石橋商店街、阪大坂を通り阪大石橋門を經由して）徒歩約 15 分

大阪（伊丹）空港から：

大阪空港駅から大阪モノレールに乗り、二駅目の柴原駅で下車 北へ（阪大正門あるいは阪大柴原口を經由して）徒歩約 15 分

新大阪駅から：

地下鉄御堂筋線（江坂駅より北は直通運転で北大阪急行線）の終点、千里中央駅で下車 大阪モノレールに乗り換えて柴原駅で下車 北へ（阪大正門あるいは阪大柴原口を經由して）徒歩約 15 分

大阪大学のページ

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/>

も参照ください。

大阪大学豊中キャンパスマップ



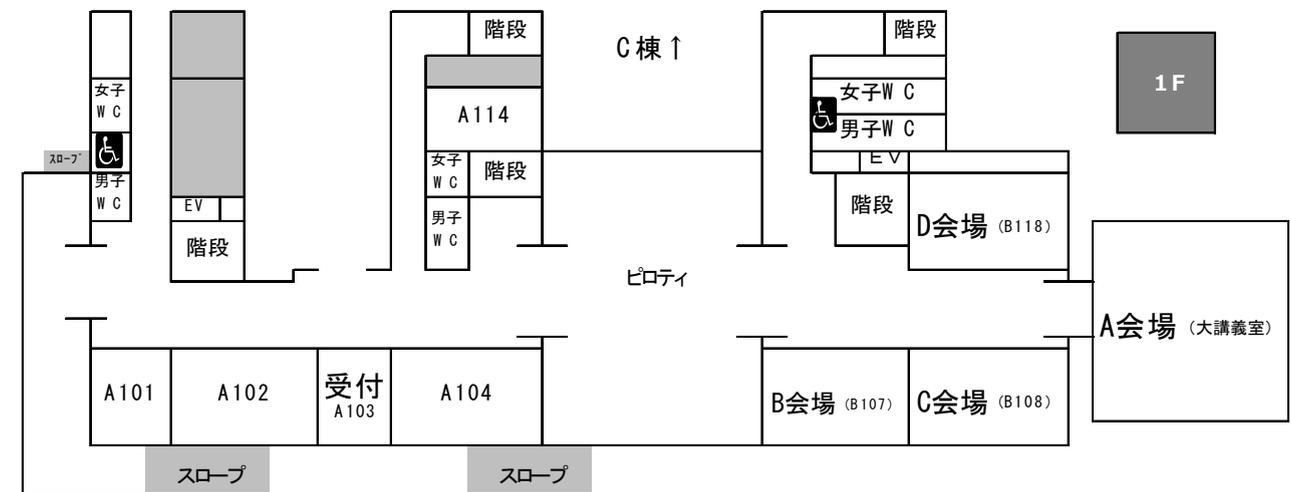
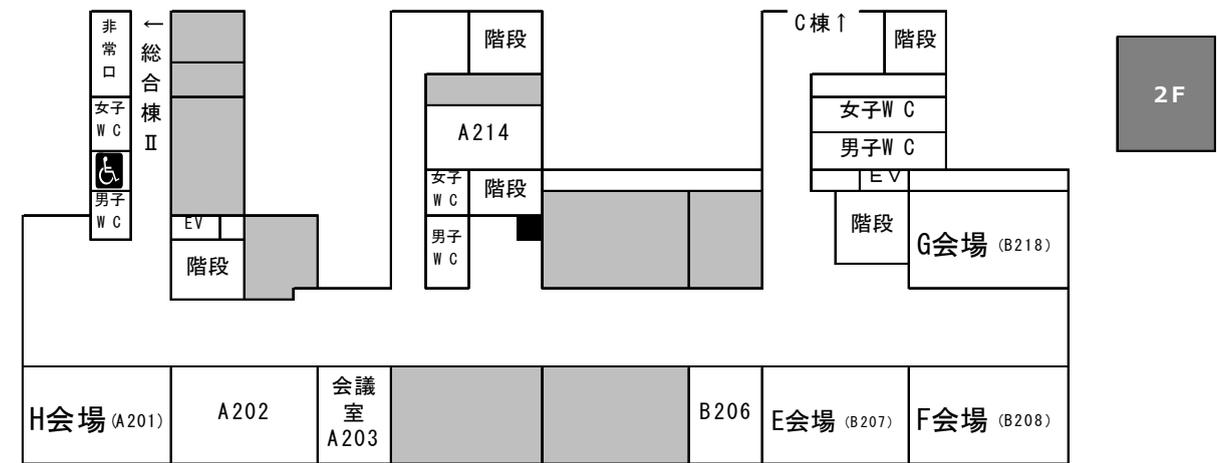
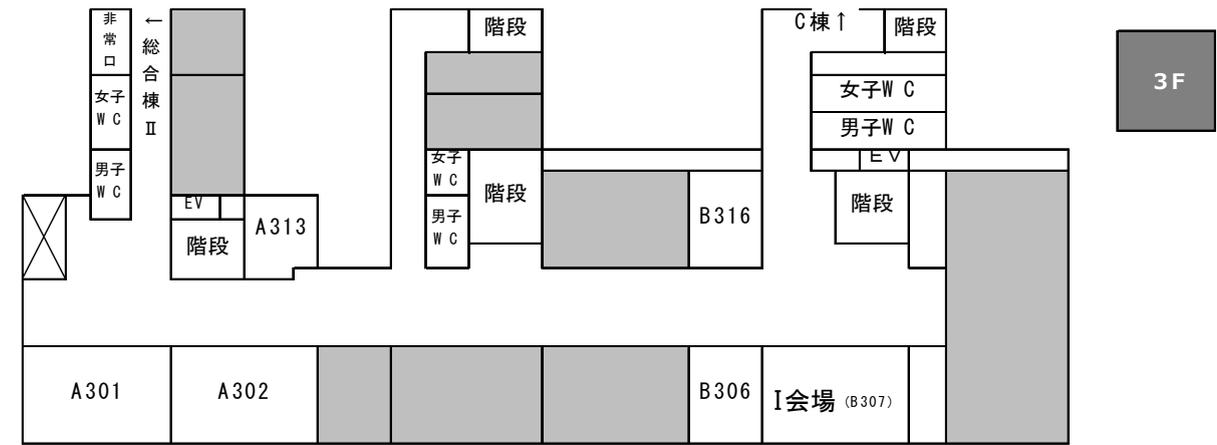
- ・豊中キャンパスの建物内は全面禁煙です。喫煙は屋外指定喫煙場所をお願いします。
- ・建物の中の広い範囲で（ただしつながりにくい部屋もあります）、阪大校内ネットワーク ODINS の無線 LAN が利用できます。使用する場合は、あらかじめ所属機関で Eduroam のアカウントを取得していただくか、受付で発行する ODINS ゲストアカウントを取得ください。
- ・3/21(祝) はキャンパス内の食堂のうち、カフェテリアらふおれのみ営業します。

会場案内図

全学教育講義A棟

全学教育講義B棟

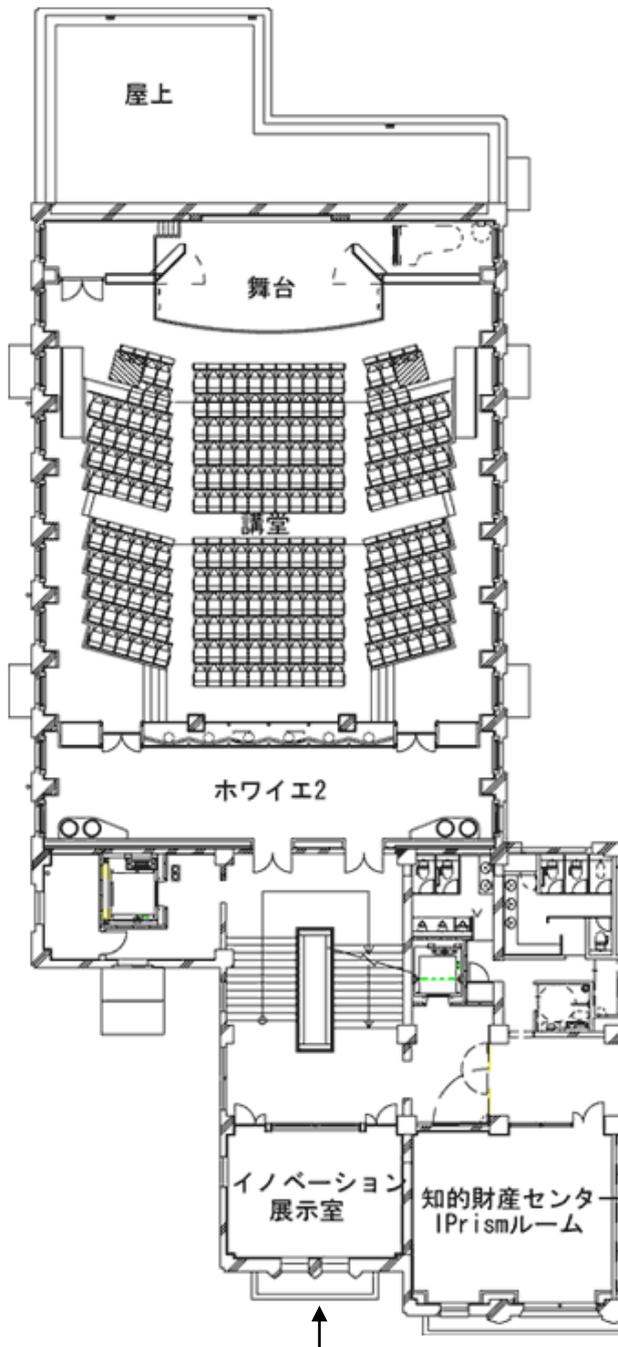
大講義室



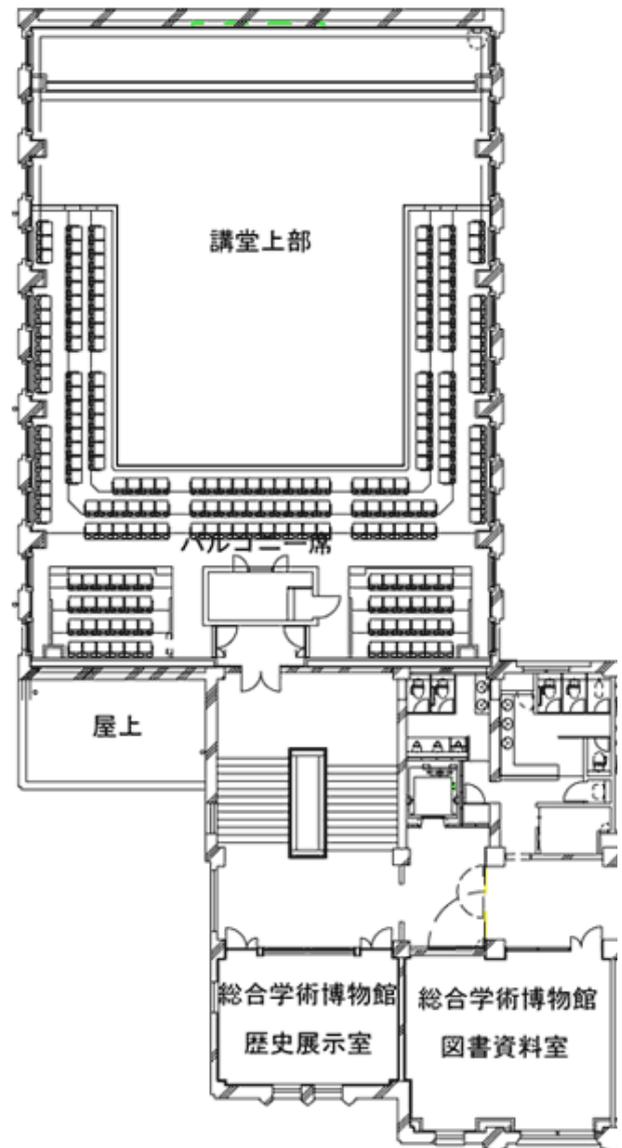
会場案内図

J会場

2F



3F



↑
1階のこのあたりが建物入り口になります

口頭セッション 3月18日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【銀河】	【高密度星】	【恒星】	【太陽】	【銀河団】	【太陽系】	【星・惑星】	【超新星爆発】	【地上観】
13:00	R01a	J201a	N01a	M01a	T01a	L01a	P101a	K01a	V101a
13:12	R02a	J202a	N02a	M02a	T02a	L02a	P102a	K02a	V102a
13:24	R03a	J203a	N03a	M03a	T03a	L03a	P103a	K03a	V103a
13:36	R04a	J204a	N04a	M04a	T04a	L04b L07b, L08b	P104a	K04a	V104a
13:48	R06a	J205a	N05a	M05a	T05a	L09a	P105a	K05a	V105a
14:00	R07a	J206a	N06a	M06a	T06a	L10a	P106a	K06a	V106a
14:12	R08a	J207a	N07a	M07a	T07a	L11a	P107a	K07a	V107b-V109b
14:24	R09a	J208a	N08a	M08a	T08a	L12a	P108a	K08a	V110b-V112b
14:36	R10b-R12b	J209a	N09a	M09a	T09a	L13a	P109a	K09a	V113b-V115b
14:48	R13b-R15b	J210b-J212b	N10a	M11a	T10a	L14b	P110b-P112b	K10a	V116b-V118b
15:00	-	-	-	M12a	T11b, T12b	-	-	-	-
15:15	特別セッション (A会場)								
17:30	天文教育フォーラム (A会場)								
19:15	理事会 (会議室)								

口頭セッション 3月19日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【銀河】	【高密度星】	【恒星】	【太陽】	【宇宙論】	【教育・他】	【星・惑星】	【超新星爆発/ 飛翔観】	【地上観】
09:30	R19a	J213a	N11a	M13a	U01a	Y01a	P113a	K11a	V123a
09:42	R20a	J214a	N12a	M14b-M16b	U02a	Y02a	P114a	K12a	V124a
09:54	R21a	J215a	N13a	M17a	U03a	Y04a	P115a	K13a	V125a
10:06	R22a	J216a	N14a	M18a	U04a	Y05a	P116a	K14a	V126a
10:18	R23a	J217b J101b, J102b	N15a	M19a	U05a	Y06a	P117a	K15a	V127a
10:30	R24a	J103b-J105b	N16a	M20a	U06a	Y07a	P118a	K16a	V128a
10:42	R25a	J106b-J108b	N17a	M21a	U07a	Y08a	P119a	K17b	V129a
10:54	R26a	J109b	N18a	M22a	U08a	Y09b-Y11b	P120a	W201a	V130a
11:06	R27b-R29b	J111a	N19a	M23b-M25b	U09a	Y12b, Y13b Y16b	P121a	W202a	V131a
11:18	R31b, R32b	J112a	N20b-N22b	M26b-M28b	U10a	Y17a	P122b-P124b	W203a	V132a
11:30	-	-	N23b-N25b	-	-	-	-	W204b-W206b	-
11:42	-	-	-	-	-	-	-	W207b, W210b	-
11:30	昼休み (代議員総会) (D会場)								
12:30	ポスター								
開始時刻	【分子雲衝突】	【高密度星】	【星間現象】	【太陽】	【宇宙論】	【教育・他】	【星・惑星】	【飛翔観】	【地上観】
13:30	A01r) A08a	J113a	Q01a	M29a	U11a	Y19a	P127a	W211a	V133a
13:42		J114a	Q02a	M30a	U12a	Y21a	P128a	W212a	V134a
13:54		J115a	Q03a	M31a	U13a	Y22a	P129a	W213a	V135a
14:06		J116a	Q04a	M32a	U14a	Y23a	P130a	W214a	V201a
14:18		J117a	Q05a	M33a	U15a	Y24a	P131b-P133b	W215a	V202a
14:30		J118a	Q06a	M34a	U16a	Y25b, Y26b Y28b	P201a	W216a	V203b V205b, V206b
14:42		J119a	Q07a	M35a	U117a	Y29a	P202a	W217a	V207a
14:54		J120a	Q08b	M36a	U18a	Y30b, Y31b	P203a	W218a	V208a
15:06		J121a	-	M37a	U19a	-	P204a	W219b-W221b	V209a
15:18		-	-	M38a	U20a	-	P205a	W223a	V210b-V212b
15:30		-	-	M39b, M40b	U21b	-	-	W224b, W226b	-
15:45		会員全体集会 (J会場)							
16:45	受賞記念講演 (J会場)								

口頭セッション 3月20日(金)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【分子雲衝突】	【高密度星】	【星間現象】	【太陽】	【銀河形成】	【活動銀河核】	【星・惑星】	【飛翔観】	【地上観】
09:30	A09r) A19b	J122a	Q10a	M41a	X01a	S01a	P207a	W101a	V213a
09:42		J123a	Q11a	M42a	X02a	S02a	P208a	W102a	V214a
09:54		J124a	Q12a	M43a	X03a	S03a	P209a	W103a	V215a
10:06		J125a	Q13a	M44a	X04a	S04a	P210a	W104a	V216b-V218b
10:18		J126a	Q14a	M45b-M47b	X05a	S05a	P211a	W105a	V219a
10:30		J127a	Q15a	M48a	X06a	S06a	P212a	W106a	V220a
10:42		J128a	Q16a	M49a	X017a	S07a	P213a	W107a	V221b,V224b V226b
10:54		J129a	Q17b, Q18b	M50a	X08b-X10b	S08a	P214a	W108b-W110b	V227a
11:06		-	-	M51a	X11b-X13b	S09b-S11b	P215b-P217b	W111b-W113b	V228a
11:18	-	-	M52a	-	S12b-S14b	P218b, P219b	W114b-W116b	V229b,V230b V232b	
11:30	-	-	-	-	-	S15b	-	W117b	-
11:30	昼休み								
12:30	ポスター								
開始時刻	【H S C】	【高密度星】	【星間現象】	【太陽】	【銀河形成】	【活動銀河核】	【星・惑星】	【飛翔観】	【地上観】
13:30	B01r) B06a	J130a	Q20a	M53a	X20a	S19a	P220a	W118a	V233a
13:42		J131a	Q21a	M54a	X21a	S20a	P221a	W120a	V234a
13:54		J132a	Q22a	M55a	X22a	S21a	P223a	W121a	V235a
14:06		J133a	Q25a	M56a	X23a	S22a	P224a	W122a	V236a
14:18		J134a	Q26a	M57a	X24a	S23a	P225a	W123a	V237a
14:30		J135a	Q27a	M58a	X25a	S24a	P226a	W124a	V238a
14:42		J136a	Q28a	M56a	X26a	S25a	P227a	W125a	V239b V241b,V242b
14:54		J137a	Q29a	M60a	X27a	S26a	P228a	W126a	V243a
15:06		J138a	Q30b-Q32b	M61a	X28a	S27a	P229a	W127a	V244b-V246b
15:18		J139a	-	M62a	-	S28a	P230a	W128a	-
15:30	-	-	-	M63a	-	S29a	-	-	-
15:45	特別セッション (A会場)								
17:15	懇親会 (カフェテリアらふおれ)								

口頭セッション 3月21日(土)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【H S C】	【高密度星】	【星間現象】	【太陽】	【銀河形成】	【活動銀河核】	【星・惑星】	【飛翔観】	【地上観】
09:30	B07a S B16a	J140a	Q33a	M64a	X29a	S30a	P231a	W129a	V247a
09:42		J141a	Q34a	M65a	X30a	S31a	P232a	W130a	V248a
09:54		J142a	Q35a	M66a	X31a	S32a	P233a	W131a	V249a
10:06		J143a	Q36a	M67a	X32a	S33a	P234a	W132a	V250a
10:18		J144a	Q37a	M68a	X33a	S34a	P235a	W134a	V251a
10:30		J145a	Q38a	M69a	X34a	S35a	P236a	W135a	V252a
10:42		J146a	Q39a	M70a	X35a	S36a	P237a	W136a	V253a
10:54		J147a	Q40a	M71a	-	S37a	P238a	W137a	V254a
11:06		J148a	Q41a	M72a	-	S38a	-	W138a	V255a
11:18		J149a	-	M73a	-	S39a	-	-	-
11:30		-	-	-	M74a	-	S40a	-	-
11:30	ポスター								
12:30	昼休み								

ポスターセッション 3月18日(水) ~ 3月21日(土)

ポスター会場				
【A. 分子雲衝突】(10)				
A14b	A15b	A16b	A17b	A18b
A19b	A20c	A21c	A22c	A23c
【J1. 高密度星】(10)				
J101b	J102b	J103b	J104b	J105b
J106b	J107b	J108b	J109b	J110c
【J2. 高密度星】(4)				
J210b	J211b	J212b	J217b	
【K. 超新星爆発】(2)				
K17b	K18c			
【L. 太陽系】(6)				
L04b	L05c	L06c	L07b	L08b
L14b				
【M. 太陽】(15)				
M10c	M14b	M15b	M16b	M23b
M24b	M25b	M26b	M27b	M28b
M39b	M40b	M45b	M46b	M47b
【N. 恒星】(7)				
N20b	N21b	N22b	N23b	N24b
N25b	N26c			
【P1. 星・惑星】(11)				
P110b	P111b	P112b	P122b	P123b
P124b	P125c	P126c	P131b	P132b
P133b				
【P2. 星・惑星】(7)				
P206c	P215b	P216b	P217b	P218b
P219b	P222c			
【Q. 星間現象】(10)				
Q08b	Q09c	Q17b	Q18b	Q19c
Q23c	Q24c	Q30b	Q31b	Q32b
【R. 銀河】(16)				
R05c	R10b	R11b	R12b	R13b
R14b	R15b	R16c	R17c	R18c
R27b	R28b	R29b	R30c	R31b
R32b				
【S. 活動銀河核】(10)				
S09b	S10b	S11b	S12b	S13b
S14b	S15b	S16c	S17c	S18c
【T. 銀河団】(3)				
T11b	T12b	T13c		

ポスターセッション 3月18日(水) ~ 3月21日(土)

【U. 宇宙論】(2)

U21b U22c

【V1. 地上観測機器】(16)

V107b V108b V109b V110b V111b

V112b V113b V114b V115b V116b

V117b V118b V119c V120c V121c

V122c

【V2. 地上観測機器】(27)

V203b V204c V205b V206b V210b

V211b V212b V216b V217b V218b

V221b V222c V223c V224b V225c

V226b V229b V230b V231c V232b

V239b V240c V241b V242b V244b

V245b V246b

【W1. 飛翔体観測機器】(12)

W108b W109b W110b W111b W112b

W113b W114b W115b W116b W117b

W119c W133c

【W2. 飛翔体観測機器】(15)

W204b W205b W206b W207b W208c

W209c W210b W219b W220b W221b

W222c W224b W225c W226b W227c

【X. 銀河形成】(12)

X08b X09b X10b X11b X12b

X13b X14c X15c X16c X17c

X18c X19c

【Y. 天文教育・他】(17)

Y03c Y09b Y10b Y11b Y12b

Y13b Y14c Y15c Y16b Y18c

Y20c Y25b Y26b Y27c Y28b

Y30b Y31b

展示

Exelis VIS (株)

A. 分子雲衝突と星形成

3月19日(木) 午後・A会場			
13:30	A01r 分子雲衝突と銀河の星形成・(30) 羽部朝男(北海道大学)	10:30	A12a 分子雲衝突による星形成にフィードバックが与える影響のシミュレーション・(12) 島和宏(北海道大学)
14:00	A02r 分子雲衝突による大質量星形成の観測的研究・(30) 鳥居和史(名古屋大学)	10:42	A13a 銀河衝突における巨大分子雲衝突・(12) 金子紘之(筑波大学)
14:30	A03a W43における一酸化炭素輝線を用いた観測的研究: 分子雲衝突と大質量星形成の関係2・(12) 切通僚介(大阪府立大学)	10:54	A14b 大質量星団[DBS2003]179方向の複数CO同位体輝線観測・(3) 桑原翔(東京大学)
14:42	A04a JCMT望遠鏡を用いたコンパクトH _{II} 領域に対するCO輝線観測: 分子雲衝突による大質量星形成・(12) 大濱晶生(名古屋大学)	10:57	A15b 分子雲衝突による超巨大星団の形成: NGC 3603について・(3) 大橋聡史(東京大学/国立天文台)
14:54	A05a 巨大星団形成における分子雲衝突の役割・(12) 福井康雄(名古屋大学)	11:00	A16b 銀河系中心分子層中の衝突分子雲候補天体CO-0.30-0.07・(3) 田中邦彦(慶應義塾大学)
15:06	A06a 分子雲衝突と星形成: Sgr B2領域から学ぶこと・(12) 長谷川哲夫(国立天文台)	11:03	A17b 乱流と衝突をともなう高密度分子雲における集団的星形成II・(3) 松本倫明(法政大学)
15:18	A07a Truncated Core Mass Function with Cloud-cloud Collision in the Central Molecular Zone・(12) Masato Tsuboi(宇宙航空研究開発機構)	11:06	A18b NRO銀河面サーベイプロジェクト: 巨大分子雲におけるフィラメントの性質とフィラメント衝突による分子雲コア形成の可能性・(3) 西村淳(国立天文台)
15:30	A08a ALMA望遠鏡による大質量クランプG0.253 + 0.016の観測研究・(12) 樋口あや(茨城大学)	11:09	A19b 「あかり」を用いた分子雲衝突が示唆されるSpitzer bubbleの統計的研究・(3) 服部和生(名古屋大学)
3月20日(金) 午前・A会場			
09:30	A09r 分子雲衝突による衝撃波の物理とコア形成・(24) 井上剛志(国立天文台)		A20c CO輝線を用いたSpitzer Bubbleサーベイプロジェクト4: ASTE, Mopra, NANTEN2によるSpitzer Bubbleの観測結果 服部有祐(名古屋大学)
09:54	A10r 大マゼラン雲のスーパージャイアントシェルが誘起する分子雲衝突・(24) 藤井浩介(東京大学)		A21c CO輝線を用いたSpitzer Bubbleサーベイプロジェクト3: Mopra望遠鏡によるSpitzer Bubble S145(RCW79)に対するCO輝線詳細観測 長谷川敬亮(名古屋大学)
10:18	A11a ALMAによる大マゼラン雲の巨大分子雲N159の高空間分解能観測: フィラメント衝突による大質量星形成・(12) 大西利和(大阪府立大学)		A22c 銀河系渦状腕に付随する分子雲の衝突確率と大質量星形成 大濱晶生(名古屋大学)
			A23c Unravelling the dynamics of the unusual SMC nebula: N66 Erik Muller (National Astronomical Observatory of Japan)

B. 始動、HSC 戦略枠プログラム

3月20日(金) 午後・A会場		3月21日(土) 午前・A会場	
13:30	B01r Hyper Suprime-Cam Project・(24) 宮崎 聡 (国立天文台)	09:30	B07a HSC サーベイの測光的赤方偏移・(12) 田中賢幸 (国立天文台)
13:54	B02r HSC 戦略枠サーベイが目指すサイエンス・(24) 高田昌広 (東京大学)	09:42	B08a HSC 測光的赤方偏移 : Machine Learning による推定・(12) 西澤 淳 (名古屋大学)
14:18	B03r HSC 戦略枠観測のデータ解析・(24) 古澤久徳 (国立天文台)	09:54	B09a バリオンを考慮した弱重力レンズ効果による宇宙論パラメータ推定・(12) 大里 健 (東京大学)
14:42	B04r HSC 戦略枠サーベイのデータベースとその使い方・(24) 高田唯史 (国立天文台)	10:06	B10a Subaru Wide-Field AGN Survey (SWANS) with HSC・(12) 長尾 透 (愛媛大学)
15:06	B05a Hyper Suprime-Cam 試験観測からのフィードバック・(12) 小宮山 裕 (国立天文台)	10:18	B11a HSC 初期データと WISE を併用した Dust Obscured Galaxies 探査・(12) 鳥羽儀樹 (愛媛大学)
15:18	B06a Hyper Suprime-Cam における銀河形状測定 of 系統誤差の評価・(12) 宮武広直 (東京大学 / Princeton University)	10:30	B12a 大規模サーベイに活用できる準解析的銀河・AGN 形成モデルの開発・(12) 榎 基宏 (東京経済大学)
		10:42	B13a 準解析的銀河・AGN 形成モデルを用いた AGN のクラスタリング解析・(12) 大木 平 (文教大学)
		10:54	B14a HSC 天体カタログを用いた移動天体・変光天体候補の抽出・(12) 山田善彦 (国立天文台)
		11:06	B15a HSC 戦略枠プログラムで検出された太陽系小天体について・(12) 吉田二美 (国立天文台)
		11:18	B16a 超新星ショックブレイクアウト探査と時間軸天文学への展望・(12) 富永 望 (甲南大学)

J1. 高密度星

3月19日(木) 午前・B会場		3月19日(木) 午後・B会場	
10:18	J101b Swift/BAT と MAXI/GSC を用いた広帯域トランジェントモニター 坂本貴紀 (青山学院大学)	13:30	J113a 高銀緯X線新星 MAXI J1619-383 の発見と MAXI が発見検出した 2014 年度後半の突発天体 根来 均 (日本大学)
10:18	J102b MAXI/GSC による銀河面 X 線天体カタログ (I) 堀 貴郁 (京都大学)	13:42	J114a MAXI で探る Vela X-1 の X 線スペクトルの軌道位相変化と周辺物質 三原建弘 (理化学研究所)
10:30	J103b RXTE/PCA で観測された GRS 1747-312 からの光球膨張 X 線バースト 岩井将親 (東京工业大学 / 宇宙航空研究開発機構)	13:54	J115a MAXI/GSC と Swift/BAT による NS-LMXB の状態遷移と降着円盤 浅井和美 (理化学研究所)
10:30	J104b 銀河系内に存在する質量降着を伴わないブラックホール連星系の個数の見積もりと位置天文衛星による発見可能性 川中宣太 (東京大学)	14:06	J116a 低質量 X 線連星系 GRS 1747-312 における食の消失 佐治重孝 (名古屋大学)
10:30	J105b 相対論的アウトフローの輻射流体モデル III 中田めぐみ (日本大学)	14:18	J117a Suzaku observations of eclipsing LMXB 2S 0921-630 in the hard state Zhongli Zhang (The Univ. of Tokyo)
10:42	J106b 低光度活動銀河核からの高エネルギーニュートリノ放射 木村成生 (大阪大学)	14:30	J118a 近赤外線モニタリング観測が示唆する X 線連星 Cir X-1 の伴星像 永山貴宏 (鹿児島大学)
10:42	J107b ブラックホール磁気圏における Penrose Compton 散乱過程 浅野豪士 (愛知教育大学)	14:42	J119a 「すざく」が得た大質量星中性子星連星系における鉄輝線の光電離の兆候 室田優紀 (東京大学)
10:42	J108b ブラックホール磁気圏における磁気流体波の伝播 伊豆丸 翔 (愛知教育大学)	14:54	J120a 「すざく」データを用いた微弱な輝線や吸収線の統計的評価方法 宮崎直人 (首都大学東京)
10:54	J109b ブラックホール降着円盤乱流の初期磁場依存性 町田真美 (九州大学)	15:06	J121a Dynamical Modeling of the Be/BH Binary AGL J2241+4454 岡崎敦男 (北海学園大学)
	J110c 原始中性子星の重力崩壊の数値シミュレーション 岩本弘一 (日本大学)		
11:06	J111a 大質量ブラックホール連星と Extrem Mass Ratio Inspiral による階層的 3 体の相対論的進化 岩佐真生 (京都大学)		
11:18	J112a 京を用いた連星磁場中性子星合体の数値相対論シミュレーション 木内建太 (京都大学)		

3月20日（金）午前・B会場		3月20日（金）午後・B会場	
09:30	J122a 多地点連携観測により得られたカニパルサー巨大電波パルスの広帯域スペクトル 三上 諒（東京大学）	13:30	J130a MAXI と Swift によるブラックホール X線連星の長期変動の観測 中平聡志（宇宙航空研究開発機構）
09:42	J123a 誘導散乱が卓越する場合のスペクトル 田中周太（東京大学）	13:42	J131a 全天 X線監視装置（MAXI）を用いた超巨大ブラックホールによる星潮汐破壊現象の X線光度関数の導出 川室太希（京都大学）
09:54	J124a マグネター 4U 0142+61 における自由歳差運動の徴候 IV 村上浩章（東京大学）	13:54	J132a MAXI による Cygnus X-1 の長期変動解析と降着モデル 杉本樹梨（理化学研究所 / 立教大）
10:06	J125a マグネター 歳差運動の二例目：「すざく」による 1E1547.0-5408 の結果 牧島一夫（東京大学 / 理研）	14:06	J133a 相対論磁気リコネクションにおける磁気散逸メカニズム 銭谷誠司（国立天文台）
10:18	J126a マグネターの歪み方とトロイダル磁場構造 藤澤幸太郎（早稲田大学）	14:18	J134a ブラックホールにより引き起こされる磁気リコネクションの数値計算 小出眞路（熊本大学）
10:30	J127a 星の慣性振動モードに対するトロイダル磁場の影響 吉田至順（東北大学）	14:30	J135a スピン傾きがある場合のブラックホール中性子星連星合体における降着円盤形成と質量放出 川口恭平（基礎物理学研究所）
10:42	J128a ミニマックス多項式近似による一般化 Fermi-Dirac 積分の解析的計算 福島登志夫（国立天文台）	14:42	J136a 原始銀河における複数ブラックホールの合体過程の研究 田川寛通（東京大学）
10:54	J129a カラー超伝導状態のクォーク物質を含む高密度星の熱的進化 野田常雄（久留米工業大学）	14:54	J137a 「すざく」による ULX 天体 NGC1313X-1 の観測 小林翔悟（東京大学）
		15:06	J138a ULX M82 X-2 における降着モード 鴈野重之（九州産業大学）
		15:18	J139a ブラックホール風の見かけの光球と熱化面とスペクトル III：ULX への適用 富田瑞穂（大阪教育大学）

J2. 高密度星

3月21日(土) 午前・B会場		3月18日(水) 午後・B会場	
09:30	J140a すぎく衛星を用いたブラックホール連星の短時間におけるX線スペクトル変動の研究 水本岬希(宇宙航空研究開発機構/東京大学)	13:00	J201a ニュートリノ冷却優勢円盤の不安定性と時間進化 木邑真理子(京都大学)
09:42	J141a 非熱的電子を考慮した円盤コロナ放射モデルの構築とブラックホール天体GX 339-4のVery High Stateのすぎく観測データへの適用 久保田あや(芝浦工業大学)	13:12	J202a 超相対論的流体中の衝撃波における輻射輸送計算手法の検証 石井彩子(東北大学)
09:54	J142a 熱的コンプトン冷却を考慮した超臨界降着流のパラメータサーベイ 小川拓未(京都大学)	13:24	J203a 相対論的ジェットの伝搬ダイナミクスが与える光球面放射への影響 伊藤裕貴(理化学研究所)
10:06	J143a 熱伝導を考慮した明るいハードステート円盤モデルにおけるコンプトン冷却の効果 谷田部紘希(千葉大学)	13:36	J204a 星周物質内部における相対論的shock breakoutの数値的研究 大谷友香理(東京大学)
10:18	J144a 一般相対論的輻射磁気流体計算で探る高降着円盤構造 高橋博之(国立天文台)	13:48	J205a 低光度ガンマ線バーストの流体モデルと爆発的元素合成 鈴木昭宏(京都大学)
10:30	J145a ブラックホールへ落下するガスリングの光変動に基づくスピンの新測定法 森山小太郎(京都大学)	14:00	J206a Gamma ray bursts associated with gravitational collapses of supermassive stars 松本達矢(京都大学)
10:42	J146a ブラックホール磁気圏の回転駆動による電流と電荷の分布構造 小島康史(広島大学)	14:12	J207a コンパクト連星合体の残光放射の時間発展シミュレーション 杜 驍(東京大学)
10:54	J147a Blandford-Znajek過程とPenrose過程の関係 当真賢二(東北大学)	14:24	J208a 長時間光るショートガンマ線バースト 木坂将大(KEK素核研)
11:06	J148a 高精度運動量空間積分によるブラックホール時空中の輻射輸送シミュレーション 高橋労太(国立高専機構苫小牧高専)	14:36	J209a マグネターモデルで極超新星をすることは可能か? 諏訪雄大(京都大学/Max Planck Institute for Astrophysics)
11:18	J149a 偏光したブラックホールシャドウの直接観測による等価原理の検証 新田大輔(名古屋大学)	14:48	J210b MAXIを用いた短いガンマ線バーストの検出方法の検討 芹野素子(理化学研究所)
		14:48	J211b 三次元相対論的MHDシミュレーションによるガンマ線バーストジェットの安定性の研究 松本 仁(理化学研究所)
		14:48	J212b 新星爆発時に発生する軟X線突発現象の探索(その2) 森井幹雄(理化学研究所)

K. 超新星爆発

3月19日(木) 午前・B会場		3月18日(水) 午後・H会場	
09:30	J213a 特異な矮新星 ASASSN-14dx の発見 磯貝桂介 (京都大学)	13:00	K01a Magnetar および Collapsar モデルに基づく r-process 元素合成 - ニュートリノ吸収の影響 藤本信一郎 (熊本高専)
09:42	J214a 複数回の再増光をおこす WZ Sge 型矮新星の観測的研究 中田智香子 (京都大学)	13:12	K02a collapsar の粘性アウトフローにおける γ -process 元素合成 福田遼平 (九州大学)
09:54	J215a Monte-Carlo シミュレーションによる強磁場激変星の反射 X 線のモデル化 林 多佳由 (宇宙航空研究開発機構)	13:24	K03a 極超新星における大質量原始中性子星からの neutrino-driven wind と weak γ star 組成 藤林 翔 (京都大学)
10:06	J216a モンテカルロ法を用いた超軟 X 線天体 CAL87 の X 線スペクトルシミュレーション 和田師也 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)	13:36	K04a 重力崩壊型超新星内部の流体力学的不安定性と重力波の解析 犬塚慎之介 (早稲田大学)
10:18	J217b WZ Sge 型矮新星 ASASSN-14jv の CCD 測光観測 小木美奈子 (岡山理科大学)	13:48	K05a SASI under non-spherical accretion flows 高橋和也 (早稲田大学)
		14:00	K06a 超新星前兆ニュートリノの放出率及びその観測可能性 加藤ちなみ (早稲田大学)
		14:12	K07a 超新星爆発前後での連星系の生存可能性 平井遼介 (早稲田大学)
		14:24	K08a ペア不安定型超新星爆発の網羅的 Yield 計算 高橋 亘 (東京大学)
		14:36	K09a 重力崩壊型超新星になる軽い CO 星の進化 吉田 敬 (京都大学)
		14:48	K10a Sub-MeV/MeV ガンマ線観測による Ia 型超新星の爆発過程解明手段 谷森 達 (京都大学)

L. 太陽系

3月19日(木) 午前・H会場		3月18日(水) 午後・F会場	
09:30	K11a 「すざく」を用いた Ia 型超新星 SN2014J の硬エックス線観測 寺田幸功 (埼玉大学)	13:00	L01a 2012年10月りゅう座流星群のMUレーダーヘッドエコー観測 藤原康徳(総合研究大学院大学/極地研)
09:42	K12a LASSOに基づいた Ia 型超新星の極大等級の変数選択 植村 誠 (広島大学)	13:12	L02a 2014年ほうおう座流星群の遠征観測 渡部潤一 (国立天文台)
09:54	K13a X線観測で明らかにしたケプラーの超新星の最大光度と周辺環境 勝田 哲 (宇宙航空研究開発機構)	13:24	L03a ほうおう座流星群の観測結果から推測する母天体 289P/Blanpain の彗星活動の遷移 佐藤幹哉(かわさき宙と緑の科学館)
10:06	K14a 超新星残骸の観測で迫る Ia 型超新星の親星問題 山口弘悦 (メリーランド大学/NASAゴダードスペースフライトセンター)	13:36	L04b 2014年ほうおう座流星群の放射点について 土屋智恵 (放送大学)
10:18	K15a IIP 型超新星 SN 2014cx の観測的性質と他の IIP 型超新星との相関関係について 福嶋大樹 (大阪教育大学)	L05c 2014年ほうおう座流星群の流星痕について 戸田雅之 (日本流星研究会)	
10:30	K16a マグネター 1E 2259+586 と付随する超新星残骸 CTB109 の親星質量 中野俊男 (東京大学)	L06c 低速流星に出現した流星痕 比嘉義裕(ひが企画/日本流星研究会)	
10:42	K17b 超新星親星のインフレーションがショックブレイクアウトに与える影響 守屋 堯 (ボン大学)	13:36	L07b ジャック彗星 (C/2014 E2 (Jacques)) の偏光撮像観測 古荘玲子(都留文科大学/国立天文台)
	K18c 超新星スペクトルのモデリング 岩本弘一 (日本大学)	13:36	L08b Lovejoy 彗星 (C/2013 R1) のプラズマの尾の高速な形状変化 八木雅文 (国立天文台)
		13:48	L09a C/2013 R1(Lovejoy) 彗星ガス輝線への Abel 変換の適用 長谷川 隆 (群馬県立ぐんま天文台)
		14:00	L10a 黄道光ダストの起源についての宇宙塵の物質科学からのアプローチ 光成拓也 (茨城大学)
		14:12	L11a 衛星および地上観測による小惑星の含水鉱物探査 臼井文彦 (東京大学)
		14:24	L12a 小惑星4ベスタの衝効果の観測 長谷川 直(宇宙航空研究開発機構)
		14:36	L13a 「あかり」中間赤外線全天 diffuse マップを用いた黄道光のモデリング 近藤 徹 (名古屋大学)
		14:48	L14b 「あかり」遠赤外線拡散光全天マップに見られる黄道光微細構造 IV 大坪貴文 (東京大学)

M. 太陽

3月18日(水) 午後・D会場		3月19日(木) 午前・D会場	
13:00	M01a 高ベータプラズマ中の磁場：磁束管の自発的形成 柴崎清登（国立天文台）	15:00	M12a Measuring and interpreting the amplitude of the cross-covariance function of solar seismic waves 長島 薫（Max-Planck-Institut für Sonnensystemforschung）
13:12	M02a 黒点ライトブリッジにおける水平磁場の出現に伴う活動性 加納龍一（東京大学）		
13:24	M03a 磁気要素の自動追跡モジュールを用いた太陽黒点の成長 / 崩壊過程の解析 加藤翔大（名古屋大学）	09:30	M13a 「ひので」のフレア観測：2014年の状況 清水敏文（宇宙航空研究開発機構）
13:36	M04a Fe I 15648Å 吸収線の円偏光で見る太陽静穏領域の水平磁場 花岡庸一郎（国立天文台）	09:42	M14b フレアの Quasi-periodic pulsation に対する新しい MHD 的なシナリオ 高棹真介（京都大学）
13:48	M05a 光球ドップラー速度場の高さ構造における5分振動成分と対流運動成分の分離 大場崇義（総合研究大学院大学 / 宇宙航空研究開発機構）	09:42	M15b 活動領域 NOAA 12192 中の磁場発展と黒点の生成・成長過程 米谷拓朗（茨城大学）
14:00	M06a 強いねじれを持つキンク不安定な磁束管の浮上過程と光球磁場構造 高棹真介（京都大学）	09:42	M16b 複雑な磁場中でのフレア・トリガ機構に関するシミュレーション研究 草野完也（名古屋大学）
14:12	M07a Hemispheric Sign Rule of Helicity and Electric Current Distribution in Solar Active Regions 桜井 隆（国立天文台）	09:54	M17a 活動領域 NOAA12192 における連続 X クラスフレアのトリガに関する研究 伴場由美（名古屋大学）
14:24	M08a Links between Sunspot Oscillations and Magnetic Helicity in the Solar Atmosphere Kirill Kuzanyan (National Astronomical Observatory of Japan, Solar Observatory, and IZMIRAN, Moscow, Russia)	10:06	M18a 活動領域 NOAA12192 のコロナ磁場構造の時間発展 塩田大幸（名古屋大学）
14:36	M09a 太陽内部マルチスケール熱対流と回転・磁場の効果 政田洋平（神戸大学）	10:18	M19a 巨大黒点 12192 はなぜコロナ質量放出を起こさなかったのか？ I 柴田一成（京都大学）
	M10c α^2 ダイナモのスケーリング則が示唆する磁場の飽和の物理 政田洋平（神戸大学）	10:30	M20a 巨大黒点 12192 はなぜコロナ質量放出を起こさなかったのか？ II 河村聡人（京都大学）
14:48	M11a 対流を模擬した鉛直シア一流による磁気回転不安定の抑制 佐野孝好（大阪大学）	10:42	M21a 軟 X 線で探るフレアループの温度構造 坂尾太郎（宇宙航空研究開発機構）
		10:54	M22a NOAA12192 で発生した大規模太陽フレアにおける白色光増光現象 渡邊恭子（宇宙航空研究開発機構）
		11:06	M23b 差動回転分布のヒステリシスと太陽型 - 反太陽型遷移の臨界値 政田洋平（神戸大学）

11:06	M24b	相対黒点数と電波・磁場フラックス及び極端紫外線強度の相関 川畑佑典（東京大学）	14:42	M35a	彩層蒸発流の観測と電離非平衡計算の比較研究 今田晋亮（名古屋大学）
11:06	M25b	太陽風パラメータの長期変動について 亘 慎一（情報通信研究機構）	14:54	M36a	太陽フレアの前兆現象における非熱的粒子の研究 梶田聡史（東海大学）
11:18	M26b	Multi-height Dopplergrams made from SDO/HMI filtergrams 長島 薫（Max-Planck-Institut für Sonnensystemforschung）	15:06	M37a	電波ドリフト・パルス構造から導くプラズモイド噴出と粒子加速 西塚直人（情報通信研究機構）
11:18	M27b	野辺山電波ヘリオグラフによる黒点上層大気構造 岩井一正（国立天文台）	15:18	M38a	AMATERAS によって観測された太陽電波 IV 型バースト中の zebra pattern の偏波特性 金田和鷹（東北大学）
11:18	M28b	彩層衝撃波と遷移層の衝突によるコロナ加熱機構 松本琢磨（宇宙航空研究開発機構）	15:30	M39b	Investigation of the Abundances of Polar Jets as the Solar Wind Source Using Hinode Shinsuke Imada（Nagoya Univ.）
3 月 19 日（木）午後・D 会場					
13:30	M29a	電波観測による白色光フレアと非白色光フレアの比較研究 増田 智（名古屋大学）	15:30	M40b	Analysis of Solar Flare Trigger Mechanism by Using MHD Simulation Johan Muhamad（Nagoya Univ.）
13:42	M30a	飛騨天文台 SMART で観測された、2013 年 5 月 14 日の巨大フレアに伴う白色光 H α 線強度の準周期的振動について 浅井 歩（京都大学）			
13:54	M31a	X 型磁場構造におけるホモロガスフレア 川畑佑典（東京大学）			
14:06	M32a	磁束浮上領域に見られるライトブリッジ状磁場構造とエネルギー解放現象 鳥海 森（国立天文台）			
14:18	M33a	太陽フレアに伴う光球面水平磁場の変化に関するシミュレーション研究 板橋佑典（名古屋大学）			
14:30	M34a	非円形フラックスロープの不安定性に関する数値解析研究 石黒直行（名古屋大学）			

3月20日(金) 午前・D会場		3月20日(金) 午後・D会場	
09:30	M41a 次期太陽観測衛星計画「Solar-C Mission」始動 渡邊鉄哉(国立天文台)	13:30	M53a Ly- α 線のハンレ効果による彩層 Alfven 波動検出の可能性 飯田佑輔(宇宙航空研究開発機構)
09:42	M42a SOLAR-Cの目指すサイエンスと科学 戦略 草野完也(名古屋大学)	13:42	M54a 彩層伝播アルフベン波の反射率計算 河野隼也(東京大学)
09:54	M43a Solar-C 光学磁場診断望遠鏡(SUVIT) の要求性能と装置設計 一本 潔(京都大学)	13:54	M55a IRIS とひのでを用いた彩層のエネル ギー輸送 馬場楓子(東京大学)
10:06	M44a 狭帯域チューナブル・フィルターを用 いた太陽彩層観測 萩野正興(京都大学)	14:06	M56a Ca II K 分光観測によるコロナループ足 元の彩層現象の診断 永田伸一(京都大学)
10:18	M45b SOLAR-C 彩層磁場診断能力は科学 課題解明に十分か? 阿南 徹(京都大学)	14:18	M57a コロナループ足下から探るコロナ加熱 問題の観測的研究 春日恵美(東京大学)
10:18	M46b 飛騨天文台 DST 観測によるフィラメン トの磁場の時間変化 澤田真平(茨城大学)	14:30	M58a ひので-IRIS の共同観測:プロミネ ンスの回転運動 岡本文典(宇宙航空研究開発機構)
10:18	M47b 遷移層~彩層磁場測定に挑む太陽 Ly α 線偏光観測ロケット実験 CLASP 成影典之(国立天文台)	14:42	M59a プロミネンスにおける中性粒子とカル シウムイオンの速度差から明らかにす る部分電離プラズマの磁場拡散 阿南 徹(京都大学)
10:30	M48a ロケット実験 FOXSI-2 による太陽硬 X 線の高感度撮像分光観測 石川真之介(国立天文台)	14:54	M60a 飛騨天文台 SMART 望遠鏡及び SDO 衛星を用いたフィラメントの消失要因 の調査 廣瀬公美(京都大学)
10:42	M49a 野辺山強度偏波計 - その軌跡と今、 そして未来 - 岩井一正(国立天文台)	15:06	M61a 国立天文台太陽フレア望遠鏡による フィラメント噴出現象の速度場解析 大辻賢一(国立天文台)
10:54	M50a 電波・EUV 同時観測による太陽活動 領域のコロナ視線磁場測定 宮脇 駿(茨城大学)	15:18	M62a 放射凝縮により形成されるプロミネ ンスの温度-密度間の乗乗則 金子岳史(東京大学)
11:06	M51a 簡易輻射冷却を用いた局所熱力学平 衡 MHD 太陽対流大気結合モデルの 構築 飯島陽久(東京大学)	15:30	M63a 日食時データを用いた EIS 観測におけ る迷光寄与の評価 藤下祐人(名古屋大学)
11:18	M52a ハンレ効果を用いた磁場診断の大気 モデル依存性について 石川遼子(国立天文台)		

N. 恒星

3月21日(土) 午前・D会場		3月18日(水) 午後・C会場	
09:30	M64a 磁気リコネクションによって発生するエネルギーフラックスとコロナ加熱 岩本直己(茨城大学)	13:00	N01a Be 星円盤の長周期捕獲振動 加藤正二(京大 OB)
09:42	M65a 非対称電流シートでの磁気リコネクションの特異的特徴 和田智秀(筑波技術大学)	13:12	N02a 恒星の自転の進化 - 質量および進化段階への依存性 勝田 豊(北海道大学)
09:54	M66a 動的ペチェック過程による磁気リコネクションの新たな高速化機構 柴山拓也(名古屋大学)	13:24	N03a 初代大質量赤色超巨星の起こす振動不安定性と大質量放出 守屋 堯(ボン大学)
10:06	M67a 高粘性プラズマにおける磁気リコネクション 簗島 敬(海洋研究開発機構)	13:36	N04a 近赤外線波長域での Arcturus 金属ラインリストの作成 近藤荘平(京都産業大学)
10:18	M68a Coupling of eigenmodes in “positive-feedback” system in 3D MHD magnetic reconnection with moderate guide field Wang Shuoyang (The Univ. of Tokyo)	13:48	N05a 強い X 線放射を示す太陽型星の岡山 188cm 望遠鏡での高分散分光観測 野津湧太(京都大学)
10:30	M69a 波動・平均流相互作用系としての太陽風 庄田宗人(東京大学)	14:00	N06a 球状星団における元素組成異常と水平分枝形状の起源(2) 須田拓馬(東京大学)
10:42	M70a NICT における太陽・太陽風シミュレーションモデルについて 田 光江(情報通信研究機構)	14:12	N07a 散開星団 M67 の酸素組成について 竹田洋一(国立天文台)
10:54	M71a スーパーフレアに伴うコロナ質量放出と高エネルギー粒子の予測 高橋卓也(京都大学)	14:24	N08a 銀河系における種族 III 星発見にむけて 小宮 悠(東京大学)
11:06	M72a 太陽活動に伴い「ひので」X線望遠鏡 CCD で検出された Speckle の増減 山田正矩(茨城大学)	14:36	N09a 超金属欠乏 AGB 星での中性子捕獲を伴う核種合成過程と Hyper Metal-poor stars (II) 山田志真子(北海道大学)
11:18	M73a 太陽高エネルギー粒子現象の多地点同時観測 久保勇樹(情報通信研究機構)	14:48	N10a 超金属欠乏星の化学組成から探る初代星の元素合成 石垣美歩(カブリ数物連携宇宙研究機構)
11:30	M74a 古文献サーベイによるオーロラ・黒点のデータベース構築 玉澤春史(京都大学)		

3月19日(木) 午前・C会場			
09:30	N11a 鉛から探る金属欠乏星の r/s プロセスの寄与 青木みさ (国際基督教大学)	11:18	N22b Chemical Abundances and Dust of the PN Wray16-423 in the Sagittarius Dwarf Spheroidal Galaxy 大塚雅昭 (国立天文台)
09:42	N12a 近赤外波長域におけるライン強度比を用いた銀河系中心セフィイドの有効温度の決定 福江 慧 (東京大学)	11:30	N23b 近赤外線高分散分光に基づく星団中の赤色超巨星の化学組成解析 福江 慧 (東京大学)
09:54	N13a KWFC 銀河面変光天体探査 (KISOGP)-III 松永典之 (東京大学)	11:30	N24b ミラ型変光星のスペクトル分類 岩崎仁美 (東北大学)
10:06	N14a ALMA and Mopra Observations of WISE J180956.27-330500.2 山村一誠 (宇宙航空研究開発機構)	11:30	N25b 非常に長い周期を持つ変光星の位置天文観測の検討 中川亜紀治 (鹿児島大学)
10:18	N15a 宇宙初期の漸近巨星分枝星での炭素ダスト形成と質量放出 III 田染翔平 (東京大学)	N26c 低自由度力学系で探る水平磁場の発生メカニズム 新井信乃 (お茶の水女子大学)	
10:30	N16a Determination of orbital parameters for a symbiotic star R Aquarii Cheulhong Min (The Graduated University for Advanced Studies (SOKENDAI), NAOJ)		
10:42	N17a Herschel Far-IR Study on Coldest Regions in Planetary Nebulae 大塚雅昭 (国立天文台)		
10:54	N18a MAXI が捉えた η Carinae の歴史的X線増光 坪井陽子 (中央大学)		
11:06	N19a Wolf-Rayet 連星系 WR 21a の X 線モニタリング観測 II 菅原泰晴 (中央大学)		
11:18	N20b 準周期的な変光を示す B 型輝線星の長期測光モニター観測 前原裕之 (国立天文台)		
11:18	N21b 遅い古典新星 V2676 Oph における分子外層の生成 新井 彰 (京都産業大学)		

P1. 星・惑星形成

3月18日(水) 午後・G会場		3月19日(木) 午前・G会場	
13:00	P101a 再電離期におけるバリオン・ダークマターの速度差を考慮した初代星形成 平野信吾(東京大学)	09:30	P113a 銀河系最外縁領域における分子雲の物理的特徴 泉 奈都子(東京大学)
13:12	P102a 超巨大ブラックホール形成に必要な紫外線輻射強度: H_2 および H_2^+ の非平衡準位占有数の効果 杉村和幸(東北大学)	09:42	P114a HCL2 領域における OH 吸収線と構造形成の関係の研究 海老澤勇治(東京大学)
13:24	P103a 巨大質量星の痕跡を示す可能性のある金属欠乏星の化学組成 青木和光(国立天文台)	09:54	P115a 低質量星形成領域 L1527 における $c-C_3D$ の検出 吉田健人(東京大学)
13:36	P104a ボロノイ図を用いた粒子分割法 千秋 元(東京大学)	10:06	P116a Detection of Complex Organic Molecules in Starless Core; TMC-1 相馬達也(東京大学)
13:48	P105a 星形成初期段階での空間スケールの違いによる角運動量輸送機構 町田正博(九州大学)	10:18	P117a 分子雲における水素分子のオルソ・パラ比と水氷の重水素比 古家健次(ライデン大学、ライデン天文台)
14:00	P106a 遅い分子雲形成過程に基づく銀河系円盤部の星形成シナリオ: 分子雲の質量関数・星形成の加速・星形成率・シュミット則の起源について 犬塚修一郎(名古屋大学)	10:30	P118a ATCA による "face-on" 大質量原始星候補天体の多周波観測 - 7 mm 帯 - 元木業人(山口大学)
14:12	P107a 衝撃波圧縮が駆動するフィラメント状分子雲形成 岩崎一成(名古屋大学)	10:42	P119a A compact outflow in a low-mass protostar with age of $\lesssim 2500$ yrs 古屋 玲(U. Tokushima)
14:24	P108a 垂直な磁場に貫かれたフィラメント状分子雲: 最大質量磁束比と安定性 花輪知幸(千葉大学)	10:54	P120a ALMA Cycle1 による高密度分子雲コア MC27/L1521F の観測 徳田一起(大阪府立大学)
14:36	P109a 化学進化から探るフィラメントの運動と星団形成: OMC-2/3 領域 大橋聡史(東京大学/国立天文台)	11:06	P121a 分子雲コアの中心に存在するアーク構造の起源 松本倫明(法政大学)
14:48	P110b 大局磁場と分子雲コアの回転軸が非平行な場合における原始星ジェットとアウトフローの進化 橋田英之(九州大学)	11:18	P122b 原始惑星系円盤のイオン化率と N_2H^+ リング 相川祐理(神戸大学)
14:48	P111b EAVN による 6.7 GHz メタノール・メーザーの VLBI サーベイ X 杉山孝一郎(茨城大学)	11:18	P123b 原始惑星系円盤形成時の化学組成進化 米田晴玲(神戸大学)
14:48	P112b Mopra mapping observations with multi-lines of dense cores in Lupus I and Lupus III 清兼和紘(東京大学)	11:18	P124b Tracing water processing from molecular clouds to embedded protostellar sources with deuteration 古家健次(ライデン大学/ライデン天文台)

3月20日（金）午前・G会場		3月20日（金）午後・G会場	
09:30	P207a 原始惑星系円盤の観測予想 村川幸史（大阪産業大学）	13:30	P220a 「あかり」とIRSFによる探査で見つけたデブリ円盤の性質 石原大助（名古屋大学）
09:42	P208a 原始惑星系円盤のミリ波偏光観測予測とダストサイズへの制限 片岡章雅（東京工業大学）	13:42	P221a デブリ円盤の厚みの進化 蔡承亨（兵庫県立大学）
09:54	P209a 原始惑星系円盤の化学反応とH ₂ Oスノーラインの検出に向けてII. ダスト表面反応とダストサイズ成長の影響 野津翔太（京都大学）	P222c Herbig Ae型星HD169142の10μm帯像で見られる円盤の微細構造 片坐宏一（宇宙航空研究開発機構）	
10:06	P210a 氷微惑星衝撃波加熱のALMAによる観測的検証法 野村英子（東京工業大学）	13:54	P223a すばる望遠鏡戦略枠観測「SEEDS」による原始惑星系円盤および系外惑星探査V 工藤智幸（国立天文台）
10:18	P211a 原始惑星系ガス円盤の消散過程と惑星形成(1) 戎崎俊一（理化学研究所）	14:06	P224a うみへび座TW星に付随する遷移円盤の近赤外線偏光観測：新たなギャップ構造の発見 秋山永治（国立天文台）
10:30	P212a 惑星の大領域集積計算：惑星の外側への移動 小南淳子（東京工業大学）	14:18	P225a Recovery of the Candidate Protoplanet HD 100546 b and Detection of Additional Disk Structures 武藤恭之（工学院大学）
10:42	P213a 微惑星集積による原始惑星の自転 柴田雄（東京大学 / 国立天文台）	14:30	P226a すばる戦略枠プロジェクトSEEDSによるYoung Stellar Objectにおける惑星探査 鵜山太智（東京大学）
10:54	P214a 巨大衝突による近接地球型惑星の形成 小久保英一郎（国立天文台）	14:42	P227a 高離心率・大質量惑星の外側に存在する伴星の直接撮像検出 葛原昌幸（東京工業大学）
11:06	P215b 原始惑星系ガス円盤の消散過程と惑星形成(2): 定常降着円盤における静穏領域と固体微粒子移動 今枝佑輔（理化学研究所）	14:54	P228a MOA-IIによる系外惑星探査：2014年の結果 越本直季（大阪大学）
11:06	P216b 巨大惑星周りのギャップ構造：密度波の減衰過程との関係 金川和弘（北海道大学）	15:06	P229a 重力マイクロレンズ法によるM型星まわりの土星質量惑星の発見 福井暁彦（国立天文台）
11:06	P217b 惑星数に対する惑星系構造の依存性 磯江麻里（東京大学 / 国立天文台）	15:18	P230a アstrometri法における「惑星検出」とは何か？ 山口正輝（国立天文台）
11:18	P218b Direct Imaging of the Transitional Disk around DM Tau Yi Yang（Graduate University for Advanced Studies (SOKENDAI)）		
11:18	P219b 惑星中層大気における高エネルギー粒子の降り込みモデルの開発 森前和宣（大阪府立大学）		

Q. 星間現象

3月21日(土) 午前・G会場		3月19日(木) 午後・C会場	
09:30	P231a すばる IRD による M 型矮星周りの地球型惑星探索 II : ターゲット選定 大宮正士 (国立天文台)	13:30	Q01a チャンドラ衛星による超新星残骸 RX J1713.7-3946 の長期モニタリング観測 荒川真範 (立教大学)
09:42	P232a 岡山 188cm 望遠鏡の新多色撮像カメラ MuSCAT のサイエンス I : 新しいトランジット惑星の発見確認と可視透過光分光 成田憲保 (国立天文台)	13:42	Q02a 超新星残骸 Cassiopeia A の鉄輝線強度の変動の発見 佐藤寿紀 (首都大学東京)
09:54	P233a 岡山 188cm 望遠鏡の新多色撮像カメラ MuSCAT のサイエンス II : 若い星の扁平率と惑星系の自転 - 軌道傾斜角の三次元測定 鬼塚昌宏 (国立天文台)	13:54	Q03a 長周期パルサー 1E 161348-5055 を伴う超新星残骸 RCW 103 の XMM-Newton による詳細解析 古田祿大 (東京大学)
10:06	P234a 皆既月食を利用した地球大気透過光の高分散分光観測 II 川内紀代恵 (東京工業大学)	14:06	Q04a すざく衛星による超新星残骸 Kes17 の元素組成と電離状態の測定 内田裕之 (京都大学)
10:18	P235a 惑星による位相光度変化と KOI-977 系の解析 平野照幸 (東京工業大学)	14:18	Q05a Chandra 衛星による新星残骸 GK Per の X 線時間発展の観測 武井大 (理化学研究所)
10:30	P236a トランジット惑星候補を有する巨星の視線速度精密測定 : Kepler-91 と KOI-1894 佐藤文衛 (東京工業大学)	14:30	Q06a 「すざく」を用いた大マゼラン雲内超新星残骸 B0532-675 の元素組成の決定 中谷創平 (埼玉大学)
10:42	P237a 重力減光を用いたホットジュピターのスピン軌道角測定と軌道の長期進化 増田賢人 (東京大学)	14:42	Q07a 「すざく」衛星による X 線背景放射観測を用いた keV 領域における暗黒物質の探査 関谷典央 (宇宙航空研究開発機構)
10:54	P238a 弱電離惑星大気中における磁気流体波動による質量放出および大気構造 田中佑希 (名古屋大学)	14:54	Q08b すざくによる超新星残骸 G272.2-3.2 の観測 上司文善 (大阪大学)
			Q09c 天の川銀河拡散 X 線放射の arcmin スケールでの空間的揺らぎの測定 内山秀樹 (静岡大学)

3月20日(金) 午前・C会場			
09:30	Q10a 部分電離プラズマ中を伝搬する無衝突衝撃波の3次元シミュレーション 大平 豊 (青山学院大学)	13:54	Q22a ISS「きぼう」日本実験棟 ExHAM を利用したダストの宇宙曝露実験計画 左近 樹 (東京大学)
09:42	Q11a 高マッハ数の準平行衝撃波における粒子の加速過程 加藤恒彦 (国立天文台)		Q23c 多環芳香族炭化水素と水素原子の反応メカニズム 福澄孝博 (北海道大学)
09:54	Q12a 非一様媒質を伝播する超新星残骸衝撃波での宇宙線生成効率について 霜田治朗 (青山学院大学)		Q24c DIB の変動に対するキャリア周辺環境の影響 三澤 透 (信州大学)
10:06	Q13a 高マッハ数衝撃波における磁気リコネクション誘発と電子加速 松本洋介 (千葉大学)	14:06	Q25a NRO 銀河面サーベイプロジェクト: M 17 Cloud A における分子雲フィラメントの解析 西村 淳 (国立天文台)
10:18	Q14a フェルミバブルにおける乱流加速と放射 佐々木健斗 (東京大学)	14:18	Q26a NRO 銀河面サーベイプロジェクト: W51 領域 藤田真司 (筑波大学)
10:30	Q15a 加熱・冷却を考慮した銀河系中心部分子雲シミュレーション 栗原 理 (茨城大学)	14:30	Q27a NRO 銀河面サーベイプロジェクト: 分子雲における熱的不安定性による分子ガスのシェル状構造の考察 津田裕也 (明星大学)
10:42	Q16a Radio Filaments Formed by Parker Instability in Galactic Center Region Chih-Han Peng (Chiba Univ.)	14:42	Q28a NRO 銀河面サーベイプロジェクト: 銀河系外縁部 松尾光洋 (鹿児島大学)
10:54	Q17b レーザー実験による磁化プラズマ中における Richtmyer-Meshkov 不安定 佐野孝好 (大阪大学)	14:54	Q29a CO 輝線を用いた Spitzer Bubble サーベイプロジェクト 1:NANTEN2、大阪府立大 1.85m、Mopra、ASTE による観測の全体像 長谷川敬亮 (名古屋大学)
10:54	Q18b ジェットと星間ガス相互作用によって形成される分子雲形状の星間ガス分布依存性 朝比奈雄太 (千葉大学)	15:06	Q30b 超新星残骸 G318.05+0.09 における特異な CO 分子の放射の検出 森 珠実 (東京大学)
	Q19c 銀河系ハローにおける圧力平衡に関する再考察 釜谷秀幸 (防衛大学校)	15:06	Q31b 銀河系中心領域の分子雲における SiO 分子の増加 上原顕太 (東京大学)
3月20日(金) 午後・C会場			
13:30	Q20a 「あかり」遠赤外線拡散光全天マッピング XIII (画像公開) 土井靖生 (東京大学)	15:06	Q32b Formation Mechanisms of HC ₅ N in TMC-1 as Studied by ¹³ C Isotopic Fractionation Kotomi Taniguchi (Toho Univ., Nobeyama Radio Observatory)
13:42	Q21a 近赤外線高分散分光器 WINERED による DIB サーベイ: DIB の新検出とその性質 濱野哲史 (東京大学)		

R. 銀河

3月21日(土) 午前・C会場		3月18日(水) 午後・A会場	
09:30	Q33a 大マゼラン雲の分子雲に帯する3mm帯スペクトラルラインサーベイII 西村優里(東京大学)	13:00	R01a 近傍銀河 NGC 3079 中心領域のアンモニア分子吸収線観測2 宮本祐介(茨城大学)
09:42	Q34a ALMAによるスーパージャイアントシェル LMC4 内部の HII 領域、N55 に付随する分子雲の観測 原田遼平(大阪府立大学)	13:12	R02a Submillimeter Observations of Dense Molecular Gas in the Nearby Active Galaxies for a Robust Energy Diagnostics 泉 拓磨(東京大学)
09:54	Q35a Mopra/ASTEによる超新星残骸 N132D の観測 佐野栄俊(名古屋大学)	13:24	R03a 最近傍スターバースト銀河 NGC5253 における超星団の形成I 三浦理絵(国立天文台)
10:06	Q36a 高速度コンパクト雲 CO-0.40-0.22 の空間速度構造 岡 朋治(慶應義塾大学)	13:36	R04a ALMAで探る衝突銀河 NGC3256 の分子ガスアウトフローの性質 道山知成(総合研究大学院大学/国立天文台)
10:18	Q37a 銀河面における星間水素の定量1: 銀河面全体の解析 漆原宏亮(名古屋大学)	R05c ASTE, 野辺山を用いた衝突の初期段階の銀河ペアのサーベイ観測 道山知成(総合研究大学院大学/国立天文台)	
10:30	Q38a 銀河面における星間水素の定量2: 高分解能の解析 山本宏昭(名古屋大学)	13:48	R06a ALMAアーカイブデータによる近傍銀河 NGC253 の回転曲線および質量分布の導出 内間克豊(明星大学)
10:42	Q39a 21cm線強度とダスト光学的厚みの相関関係に基づく中性水素原子の定量 早川貴敬(名古屋大学)	14:00	R07a 4000 Å ブレイクの強さと星質量に対する分子ガスの割合との関係 諸隈佳菜(国立天文台)
10:54	Q40a 分子雲領域における星間水素の定量 岡本竜治(名古屋大学)	14:12	R08a 近傍銀河 M83 の ALMA+45m による ^{12}CO (1-0) 輝線の広域観測 廣田晶彦(国立天文台)
11:06	Q41a 中性水素原子ガス速度構造の詳細解析から探る星間物質の進化 服部 桃(名古屋大学)	14:24	R09a Multi Line Observation toward Spiral Arm of M51 with the CARMA 渡邊祥正(東京大学)
		14:36	R10b Anomalous Flux Ratio of Infrared Hydrogen Recombination Lines in Ultraluminous Infrared Galaxies 矢野健一(University of Tokyo, ISAS/JAXA)

14:36	R11b	Pa α , H α 輝線を用いた近傍 LIRG のダスト減光分布測定 小早川 大 (東京大学)	10:18	R23a	wakelets の非線形相互作用による銀河の大局的な渦状腕形成 熊本 淳 (東北大学)
14:36	R12b	Millimeter Hydrogen Recombination Line in the Center of NGC 253 中西康一郎 (国立天文台)	10:30	R24a	棒状渦巻銀河における分子雲形成進化の環境依存性 馬場淳一 (東京工業大学)
14:48	R13b	分子雲衝突が引き起こす棒渦巻銀河における星形成の環境依存性 藤本裕輔 (北海道大学)	10:42	R25a	連星中性子星合体による矮小銀河の r プロセス元素分布 平居 悠 (東京大学 / 国立天文台)
14:48	R14b	近傍銀河 NGC 628 における arm/inter-arm 領域の CO(J=3-2)/CO(J=2-1) 輝線強度比の空間分布 武田美保 (大阪府立大学)	10:54	R26a	星生成史に従ってモデル計算した矮小不規則銀河 IC 1613 の化学進化 本間英智 (東北大学)
14:48	R15b	近傍銀河の分子ガス質量に対する銀河環境の影響 梅井迪子 (北海道大学)	11:06	R27b	銀河面からの軟 X 線背景放射 (2) 中道 蓮 (名古屋大学)
	R16c	SDSS データを用いた箱型銀河・棒渦巻銀河カタログの作成と統計的研究 吉野 彰 (宇宙航空研究開発機構)	11:06	R28b	位相分布関数を用いた銀河系中心部の力学構造の解析 原 拓自 (東京大学)
	R17c	銀河中心部の大質量天体と親銀河の性質の関係に関する統計的研究 隈井泰樹 (熊本学園大学)	11:06	R29b	銀河系中心領域に発見したセファイド変光星の運動 松永典之 (東京大学)
	R18c	多質量成分恒星系のクーロン対数 高橋広治 (埼玉工業大学)		R30c	VERA を用いた sh2-76E の年周視差計測 濱畑秀峰 (鹿児島大学)
3 月 19 日 (木) 午前・A 会場					
09:30	R19a	星数密度分布から探る銀河系中心の広がった X 線の放射源 II 長友 竣 (京都大学)	11:18	R31b	Cold dark matter halo における cusp-core 問題と too-big-to-fail 問題の関連性 加藤一輝 (筑波大学)
09:42	R20a	Suzaku By-Week Monitoring of the Galactic Center Sgr A* in X-rays (III) 前田良知 (宇宙航空研究開発機構)	11:18	R32b	レンズクエーサーを用いた多視線分光観測による金属吸収体の統計的調査 小山田涼香 (信州大学)
09:54	R21a	磁気乱流による銀河系中心近傍ガスの非円軌道運動の励起 鈴木 建 (名古屋大学)			
10:06	R22a	幾何学的に薄い銀河ガス円盤におけるダイナモの大局的 3 次元磁気流体シミュレーション 工藤祐己 (千葉大学)			

S. 活動銀河核

3月20日(金) 午前・F会場			
09:30	S01a	狭輝線1型セイファート銀河のX線時間変動に対する特徴付けとその比較 桑原啓介(首都大学東京)	11:18 S12b 広帯域X線スペクトルから探る活動銀河核のトラス構造 粟木久光(愛媛大学)
09:42	S02a	ケプラーブレイザー W2R 1926+42 のショット解析による短時間変動の研究 笹田真人(京都大学)	11:18 S13b 活動銀河核におけるX線時間変動の系統的研究 本川祐司(芝浦工業大学)
09:54	S03a	l1トレンドフィルターを用いたアウトバースト検出によるブレイザー天体の磁場構造の推定 神田優花(広島大学)	11:18 S14b ケーサースペクトルエネルギー分布の準解析的モデルへの導入と解析 白方光(北海道大学)
10:06	S04a	MAGIC望遠鏡による活動銀河核 IC310からのガンマ線短時間変動観測 榎田淳子(東海大学)	11:30 S15b データマイニングによるFermi-LAT未同定天体からのAGN候補の抽出 澁谷文紀(芝浦工業大学)
10:18	S05a	3C 120: ブラックホールと γ 線放射領域とジェット生成領域と電波コアの位置関係 土居明広(宇宙航空研究開発機構)	S16c Gen Aからのガンマ線放射に関する2成分ジェットモデル 楠瀬正昭(関西学院大学)
10:30	S06a	VLBA+GBT@86GHzによるM87ジェット生成領域の高分解能・高解像度 秦和弘(国立天文台)	S17c VERAによる低光度AGN M84の2周波(22,43 GHz)同時モニター観測 中原聡美(鹿児島大学)
10:42	S07a	EHTで探るM87の超巨大ブラックホール最近傍の構造II 秋山和徳(東京大学)	S18c Long Light Curves of 16 Never-Observed Sources in Southern Hemisphere using the Geodetic VLBI 貴島政親(徳島大学)
10:54	S08a	疎性モデリングを用いたM87中心核の超解像イメージング 田崎文得(国立天文台)	
11:06	S09b	Arp 102Bのダブルピーク $H\alpha$ 輝線短期変動の分光観測 中尾光(北海道大学)	
11:06	S10b	近赤外線分光観測に基づくセイファート銀河の狭輝線領域における電離メカニズムへの制限 寺尾航暉(愛媛大学)	
11:06	S11b	ラインフォース駆動型円盤風の示す時間変動 野村真理子(国立天文台)	

3月20日(金) 午後・F会場		3月21日(土) 午前・F会場	
13:30	S19a エディントン光度：再考 福江 純 (大阪教育大学)	09:30	S30a セイファート NGC 3516 の X 線と可視光の間に見られた光度変動の遅延 野田博文 (理化学研究所)
13:42	S20a 多重層雲の輻射輸送的特徴 増田剛大 (大阪教育大学)	09:42	S31a 活動銀河核の中性 FeK α 輝線幅の系統的解析による放射領域推定と時間変動性の発見 伊藤由裕 (東京理科大学)
13:54	S21a 降着円盤輻射で駆動する層雲の運動特性 仲井琢哉 (大阪教育大学)	09:54	S32a フレームワーク MONACO を用いた活動銀河核トラスの X 線スペクトルシミュレーション 2 古井俊也 (広島大学)
14:06	S22a 光学的に薄い球対称ブラックホール風におけるシンクロトロン放射スペクトルの特徴 早川 賢 (大阪教育大学)	10:06	S33a 2 型活動銀河核の偏光広輝線観測に対するトラスの幾何構造の影響 市川幸平 (京都大学)
14:18	S23a 降着円盤アウトフローの密度 / 速度構造が与えるスペクトル吸収線への影響 吉田鉄生 (国立天文台)	10:18	S34a IR observation and SED+spectroscopy fitting of a buried AGN in the nearby merging galaxy NGC 6240 Tamami Mori (The Univ. of Tokyo)
14:30	S24a 最大離角レンズクェーサーによる AGN アウトフロー内部構造の調査 三澤 透 (信州大学)	10:30	S35a 「あかり」と Spitzer を用いた分子トラスの物理状態の推定 馬場俊介 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)
14:42	S25a クェーサー光度とアウトフローの時間変動の関連 堀内貴史 (信州大学)	10:42	S36a 強い吸収を受けた活動銀河核における高励起分子ガスの起源について 中川貴雄 (宇宙航空研究開発機構)
14:54	S26a ガス雲の通過に伴う銀河中心ブラックホール高温降着流の光度変化 川島朋尚 (国立天文台)	10:54	S37a Subaru/XMM-Newton Deep Survey 領域の X 線選択された活動銀河核の空間相関 水野翔太 (京都大学)
15:06	S27a 超巨大ブラックホール成長と銀河核ガス円盤の関係 川勝 望 (呉工業高等専門学校)	11:06	S38a HSC サーベイを用いた高赤方偏移クェーサー探査 尾上匡房 (総合研究大学院大学)
15:18	S28a AGN トラスの起源とその力学・化学進化 和田桂一 (鹿児島大学)	11:18	S39a Quasar Host Galaxies in the SDSS Reverberation Mapping Project 松岡良樹 (国立天文台)
15:30	S29a 分子輝線観測で探る銀河系中心核への質量供給過程 竹川俊也 (慶應義塾大学)	11:30	S40a クェーサー広輝線領域の [Mg/Fe] 組成比診断法 鮫島寛明 (宇宙航空研究開発機構)

T. 銀河団

3月18日(水) 午後・E会場			
13:00	T01a 「すざく」による大規模フィラメント上の銀河団 AWM 7 の鉄質量 - 銀河光度比の方向依存性 横田佳奈 (東京理科大学)	15:00	T12b 「すざく」衛星による銀河団 Abell 3391 と Abell 3395 の連結領域の観測 菅原悠宇紀 (山形大学)
13:12	T02a 「すざく」による NGC 1550 銀河群のビリアル半径付近までの鉄質量 - 銀河光度比とエントロピー分布 佐々木 亨 (東京理科大学)		T13c 早期ブラックホール形成と銀河団内ガスの鉄分布への影響 山田美幸 (お茶の水女子大学)
13:24	T03a 「すざく」衛星を用いた銀河団外縁部でのアバンドランスの不定性の評価 阿部雄介 (東京理科大学)		
13:36	T04a 衝突初期の銀河団 CIZA J1358.9-4750 の「すざく」による追加観測～外縁部の ICM の特徴～ 加藤佑一 (東京大学)		
13:48	T05a X 線天文衛星すざくを用いた衝突銀河群探査 (2) 三石郁之 (名古屋大学)		
14:00	T06a 銀河団 1RXS J0603.3+4214 の電波レリック周辺領域での物理状態と粒子加速過程 板花まどか (山形大学)		
14:12	T07a 衝突銀河団 Abell 754 中の衝突電離非平衡プラズマの探査 井上翔太 (大阪大学)		
14:24	T08a 電波銀河 NGC3862 の偏波観測による銀河団 Abell1367 の磁場推定 高橋育美 (山形大学)		
14:36	T09a X 線天文衛星 XMM-Newton を用いた近接銀河団 RXC J0751.3+1730 および SDSS +117.7+17.7+0.19 の観測 小林洋明 (名古屋大学)		
14:48	T10a $z \sim 0.25$ の銀河団ハローにおける Luminous Red Galaxy の中心占有率 星野華子 (名古屋大学)		
15:00	T11b すざく衛星による中間赤方偏移銀河群 Bootes Group の系統的観測 前島将人 (名古屋大学)		

U. 宇宙論

3月19日(木) 午前・E会場		3月19日(木) 午後・E会場	
09:30	U01a 連星合体重力波観測による重力子振動制限の可能性 成川達也(大阪大学)	13:30	U11a Observational constraints of a cosmological model with a variable equation of state E.P.B.A. Thushari (Kyushu Univ.)
09:42	U02a 物質密度揺らぎの成長率の将来観測による Λ CDMモデルと修正重力理論との判別の可能性 平野耕一(都留文科大学)	13:42	U12a N体計算精度パラメータのハローパワースペクトルに対する影響評価 石川敬視(京都大学)
09:54	U03a 宇宙大規模構造からのスカラー・テンソル理論のパラメータ制限 青山尚平(名古屋大学)	13:54	U13a 特異速度相関関数における理論予言への解析的アプローチ 杉山尚徳(Kavli IPMU)
10:06	U04a Future detectability of gravitational-wave induced lensing from high-sensitivity CMB experiments 並河俊弥(Stanford University)	14:06	U14a Subhalo abundance and age matching to model galaxy-dark matter halo connection of the BOSS CMASS sample 斎藤 俊(東京大学)
10:18	U05a Studying 21cm power spectrum with one-point statistics 島袋隼士(名古屋大学)	14:18	U15a 弱重力レンズ効果を用いたフィラメントの直接観測 樋口祐一(国立天文台)
10:30	U06a バリオンの超音速相対速度が球対称崩壊モデルに与える影響 浅羽信介(名古屋大学)	14:30	U16a 4重像重力レンズを用いた温かいダークマターの質量の制限 井上開輝(近畿大学)
10:42	U07a 球対称崩壊・楕円体崩壊モデルの再考 須藤大地(東京大学)	14:42	U17a Sterile neutrinoからのX線は本当に検出されたか? 小山勝二(京都大学)
10:54	U08a 銀河分布と弱い重力レンズ効果の三点統計による原始非ガウス性の決定精度 橋本一彦(京都大学)	14:54	U18a CO luminosity - line width correlation of sub-millimeter galaxies Tomotsugu Goto (National Tsing Hua Univ.)
11:06	U09a Ia型超新星の明るさの分散を用いた宇宙小スケール密度揺らぎへの制限 高橋龍一(弘前大学)	15:06	U19a 宇宙膨張論の検証XXIV 空間膨張宇宙ならば(5)宇宙表面直近の光の挙動 阿武靖彦
11:18	U10a 非一様宇宙における距離・赤方偏移関係 羽田龍一郎(東北大学)	15:18	U20a 宇宙の素粒子の必要条件を満たす「超微粒子論」2 小堀しづ
		15:30	U21b 地表では $E=mc^2$ 、ですが、宇宙では $E=mc^2 \times A$ であり、 $m=E \div c^2 \div A$ 、です。質量普遍の法則ができる理由 高エネルギー加速器を陽子のラブは通過する 小堀しづ
			U22c 宇宙の中心のブラックホールができた時空とU1.27と泡構造 小堀しづ

V1. 地上観測機器

3月18日(水) 午後・I会場			
13:00	V101a 南極 10 m 級テラヘルツ望遠鏡の強度較正法 小林和貴 (筑波大学)	14:36	V113b 野辺山宇宙電波観測所の運用 : 1. 科学要求 齋藤正雄 (国立天文台)
13:12	V102a 南極 10m 級テラヘルツ望遠鏡の電波カメラ系反射鏡群の構造設計 北本翔子 (筑波大学)	14:36	V114b 臼田 64m 等の衛星・探査機用アンテナを利用した電波天文観測の状況 村田泰宏 (宇宙航空研究開発機構)
13:24	V103a POLARBEAR 実験 : 主焦点連続回転半波長板を用いた広視野観測の解析 高倉 理 (大阪大学)	14:36	V115b 高萩 / 日立 32 m 電波望遠鏡の整備状況 (11) 米倉覚則 (茨城大学)
13:36	V104a ASTE 搭載用多色連続波カメラの開発 (4) : 科学運用に向けた開発 大島 泰 (国立天文台)	14:48	V116b ALMA パイプラインの現状 3 秋山永治 (国立天文台)
13:48	V105a 大阪府大 1.85m 望遠鏡の受信機開発 2014 長谷川 豊 (大阪府立大学)	14:48	V117b 望遠鏡の指向方向較正におけるずれの扱いについて 永井 誠 (筑波大学)
14:00	V106a 10m-SPART 電波望遠鏡を用いた 100/200GHz 帯における太陽系地球型惑星の中層大気環境監視プロジェクトの進捗 前澤裕之 (大阪府立大学)	14:48	V118b 太陽風観測のための富士・木曾電波望遠鏡システムの更新 山崎高幸 (名古屋大学)
14:12	V107b 100 GHz 帯直列接合型 SIS 素子の開発 : 交流ジョセフソン効果の影響 中島 拓 (名古屋大学)		V119c ASTE10 m 望遠鏡搭載 THz 受信機の開発 山本 智 (東京大学)
14:12	V108b 200GHz 帯直列接合型 SIS 素子の開発 : MSL 共振周波数特性の測定 加藤智隼 (名古屋大学)		V120c 電波合成型ミリ波アンテナの設計 2 春日 隆 (法政大学)
14:12	V109b 「FOREST」搭載 IF 広帯域化 100 GHz 帯 SIS ミキサの開発2 上月雄人 (大阪府立大学)		V121c 空気シャワーから放射されるマイクロ波の探索 III 大田 泉 (甲南大学)
14:24	V110b 1.9THz 帯導波管型超伝導 NbTiN-HEB ミキサ検出素子の開発 齊藤滉介 (大阪府立大学)		V122c 那須 30 m アンテナを用いた Fast Radio Bursts の探査計画 青木貴弘 (早稲田大学)
14:24	V111b 南極 10 m テラヘルツ望遠鏡広視野光学系の基本設計 (2) 今田大皓 (筑波大学)	3月19日(木) 午前・I会場	
14:24	V112b MKID 用多素子同時読み出し回路の評価 岡田 隆 (東京大学)	09:30	V123a ALMA の建設 (22) と運用 (6) 阪本成一 (国立天文台)
		09:42	V124a ALMA : 干渉計位相補正の現状と課題 (3) : 長基線試験における位相補償観測 (ALMA: fringe phase calibration (3) : phase referencing for the long baselines) Yoshiharu Asaki (Institute of Space and Astronautical Science)

V2. 地上観測機器

		3月19日(木) 午後・I会場	
09:54	V125a ALMAによるミリ波・サブミリ波での太陽観測：4 下条圭美(国立天文台)	14:06	V201a RAVENプロジェクトの進展 大屋真(国立天文台)
10:06	V126a データ解析ライブラリ Sakura の開発とALMA 単一鏡データ解析への応用 中里剛(国立天文台)	14:18	V202a Subaru/RAVEN を用いたトモグラフィック再構成手法の開発と実証 大野良人(東北大学/国立天文台)
10:18	V127a ALMA データ解析パイプラインとデータ解析ソフト CASA の開発 杉本香菜子(国立天文台)	14:30	V203b Subaru/RAVEN の on-sky 観測で得られた大気揺らぎの経験的モード展開 山崎公大(東北大学)
10:30	V128a ALMA 観測サイトにおけるキャリブレーション用信号源 その6 木内等(国立天文台)	V204c すばる望遠鏡サイトにおける地表層ゆらぎ評価活動の概要 大屋真(国立天文台)	
10:42	V129a 野辺山 45m 搭載 新マルチビーム受信機「FOREST」の開発進捗9：2014 年度の進捗 南谷哲宏(国立天文台)	14:30	V205b すばる望遠鏡におけるドームシーイングの測定 沖田博文(国立天文台)
10:54	V130a 周波数変調局発振器による新しいミリ波サブミリ波分光法：IV. 野辺山 45m 望遠鏡での性能評価試験 谷口暁星(東京大学)	14:30	V206b 次世代超大型望遠鏡の広視野補償光学の光学設計 高田大樹(東北大学)
11:06	V131a 山口干渉計と大学連携・東アジア VLBI 観測網 藤沢健太(山口大学)	14:42	V207a H.E.S.S. サイトにおけるシーイングの測定 沖田博文(国立天文台)
11:18	V132a JCMT- 野辺山基線による 230GHz 帯 VLBI 実験(サブミリ波 VLBI 技術開発) 三好真(国立天文台)	14:54	V208a ステラコロナグラフ用位相マスクの数値的デザイン 馬場直志(北海道大学)
		15:06	V209a 位相振幅同時計測方式波面センサの開発2 山本広大(京都大学)
3月19日(木) 午後・I会場		15:18	V210b MASS-DIMM による名寄の大気擾乱高度プロファイルの測定(2) 合田周平(北海道大学)
13:30	V133a 広帯域受信電波望遠鏡(パラボラアンテナ)の開発(3) 福崎順洋(国土交通省国土地理院)	15:18	V211b 北大惑星用補償光学系の開発の進捗状況 渡辺誠(北海道大学)
13:42	V134a 広帯域フィードの開発(VIII) 氏原秀樹(情報通信研究機構)	15:18	V212b 小型屈折光学系補償光学装置(CRAO) - モノモルフ DM の性能評価と室内補償実験 北尾栄司(京都産業大学)
13:54	V135a 電波天文学技術を応用した雲発生予報用マルチバンド観測システム 長崎岳人(高エネルギー加速器研究機構)		

3月20日(金) 午前・I会場		3月20日(金) 午後・I会場	
09:30	V213a 地球型惑星検出のためのすばる赤外線ドップラー分光器 IRD の開発: 9 小谷隆行 (国立天文台)	10:42	V226b 明野 50cm 可視光望遠鏡の 2014 年度運用実績 斉藤嘉彦 (東京工業大学)
09:42	V214a 近赤外線高分散分光器 IRD のスクランブラー開発 馬場はるか (総合研究大学院大学)	10:54	V227a スペースデブリをとらえる DEBDAS 地上可視観測網の構築 山岡 均 (九州大学)
09:54	V215a 超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e の観測戦略 酒向重行 (東京大学)	11:06	V228a ハイパー望遠鏡における撮像画像処理の計算機シミュレーション 中井悠人 (北海道大学)
10:06	V216b 超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e の読み出しシステムの開発 菊池勇輝 (東京大学)	11:18	V229b チベットロボット三色撮像カメラ (HinOTORI) : 性能評価 内海洋輔 (広島大学)
10:06	V217b 超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e のバックエンド解析システムの開発 大澤 亮 (東京大学)	11:18	V230b ひとみ望遠鏡の性能評価の進捗 溝口小扶里 (仙台市天文台)
10:06	V218b KOOLS-IFU ファーストライトの結果 松林和也 (京都大学)		V231c ひとみ望遠鏡中分散分光器での試験観測 溝口小扶里 (仙台市天文台)
10:18	V219a 岡山天体物理観測所のリモート観測環境構築 柳澤顕史 (国立天文台)	11:18	V232b 鹿児島大学 1m 光赤外線望遠鏡への部分減光フィルタの導入と性能評価 井上幹一郎 (鹿児島大学)
10:30	V220a 国立天文台岡山 188cm 望遠鏡の焦点合わせの自動化 神谷浩紀 (国立天文台)	3月20日(金) 午後・I会場	
10:42	V221b 明るい星専用赤外線観測システムの開発 花上拓海 (東北大学)	13:30	V233a off-axial 光学系の近軸理論を応用した南極 2.5m 望遠鏡用三色赤外線カメラの光学設計 小幡朋和 (東北大学)
	V222c 明るい星専用赤外線観測システムに使用する望遠鏡架台の制御 筒井寛典 (国立天文台)	13:42	V234a 京大岡山 3.8m 望遠鏡計画: 分割主鏡制御システムの開発状況 木野 勝 (京都大学)
	V223c TAO Survey の現況 清田誠一郎 (VSOLJ)	13:54	V235a 東京大学アタカマ天文台 TAO6.5m 望遠鏡の建設進捗 吉井 讓 (東京大学)
10:42	V224b 埼玉大学 55cm 望遠鏡観測システムの自動化と基本特性調査 石橋遥子 (埼玉大学)	14:06	V236a 近赤外線 2 色同時多天体分光撮像装置 SWIMS の開発進捗報告 小西真広 (東京大学)
	V225c 可視三色同時偏光撮像装置の開発 大朝由美子 (埼玉大学)	14:18	V237a TAO 6.5m 望遠鏡用第一期中間赤外線観測装置 MIMIZUKU の開発進捗 上塚貴史 (東京大学)

		3月21日(土) 午前・I会場
14:30	V238a MOIRCS用マイクロレンズアレイ面分光ユニットの開発：進捗状況 石垣 剛 (岩手大学)	09:30 V247a TMT計画の進捗報告 家 正則 (国立天文台)
14:42	V239b MOIRCS ロングスリット観測法の改良 田中 亮 (国立天文台)	09:42 V248a TMT計画 - 超大型望遠鏡本体の詳細設計 臼田知史 (国立天文台)
	V240c HiCIAO differential imaging の改良 森野潤一 (国立天文台)	09:54 V249a TMT計画-主鏡フルサイズセグメントの量産工程開発 山下卓也 (国立天文台)
14:42	V241b FOCAS用イメージライサertype面分光ユニットの開発 進捗状況 尾崎忍夫 (国立天文台)	10:06 V250a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA: 全体報告 田越秀行 (大阪大学)
14:42	V242b 中間赤外線高精度モニタリングに向けたTAO/MIMIZUKU搭載 Field Stacker機構の開発 内山允史 (東京大学)	10:18 V251a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA の補助光学系の開発 V 阿久津智忠 (国立天文台)
14:54	V243a 点回折干渉計に用いるピンホール付きビームスプリッタの電磁波解析 今田大皓 (筑波大学)	10:30 V252a 重力波検出器の方向決定精度 大石奈緒子(東京大学/国立天文台)
15:06	V244b モスアイ構造を用いた長波長中間赤外線高効率光学素子の開発 上塚貴史 (東京大学)	10:42 V253a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画：全体報告(8) 手嶋政廣 (東京大学)
15:06	V245b 超精密切削加工を用いたイメージライサertype IFUの光学素子開発 北川祐太郎 (東京大学)	10:54 V254a CTA 大口径望遠鏡の分割鏡開発(7) 長 紀仁 (茨城大学)
15:06	V246b 半導体光増幅素子 MPPGを用いたパルサーの高時間分解観測装置の開発 中森健之 (山形大学)	11:06 V255a CTA 大口径望遠鏡用 PMT の性能評価と較正試験報告 松岡俊介 (埼玉大学)

W1. 飛翔体観測機器

3月20日(金) 午前・H会場			
09:30	W101a ASTRO-H 衛星搭載硬 X 線撮像検出器 (HXI) の現状 FM の完成 中澤知洋 (東京大学)	11:06	W112b 空間的反同時計数によるバックグラウンド除去を目指した X 線 CCD 検出器の性能検証実験 甲斐晋二 (東京工業大学 / 宇宙航空研究開発機構)
09:42	W102a ASTRO-H 搭載軟 X 線撮像検出器 SXI の開発の現状 村上弘志 (東北学院大学)	11:06	W113b 電荷交換反応由来の X 線検出を目指した地上分光システムの構築 星野晶夫 (立教大学)
09:54	W103a ASTRO-H 搭載 精密軟 X 線分光装置 SXS の開発の現状 XIII 辻本匡弘 (宇宙航空研究開発機構)	11:18	W114b PolariS 搭載用硬 X 線撮像偏光計の開発: バックグラウンド成分とパッシブターゲット 林田 清 (大阪大学)
10:06	W104a ASTRO-H 搭載 SXS 較正用 ^{55}Fe X 線源の絶対強度測定 倉嶋 翔 (首都大学東京)	11:18	W115b 電子飛跡検出型コンプトンカメラが持つ MeV ガンマ線偏光撮像能力の検証 谷森 達 (京都大学)
10:18	W105a ASTRO-H SXT 用反射鏡の金の L 吸収端付近の反射率測定 菊地直道 (首都大学東京)	11:18	W116b MAXI/SSC のデータを用いた天体カタログ 富田 洋 (宇宙航空研究開発機構)
10:30	W106a ASTRO-H 衛星搭載軟ガンマ線検出器 (SGD) の搭載品を用いた軌道上環境での動作検証 枝廣育実 (広島大学)	11:30	W117b すざくソースカタログの開発 海老沢 研 (宇宙航空研究開発機構)
10:42	W107a ASTRO-H 衛星搭載軟ガンマ線検出器 (SGD) の搭載品を用いた地上較正試験による性能評価 内田悠介 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)		
10:54	W108b SMBH の進化解明をめざす FFAST 衛星計画の現状 常深 博 (大阪大学)		
10:54	W109b FFAST 搭載硬 X 線カメラ用 SD-CCD 素子に対する陽子照射実験の報告 今谷律子 (大阪大学)		
10:54	W110b FFAST 衛星搭載硬 X 線カメラの軌道上性能評価用シミュレータの開発 穴吹直久 (大阪大学)		
11:06	W111b 反同時計数型 X 線 CCD 素子の、モンテカルロシミュレーションを用いた性能評価 近藤恵介 (総合研究大学院大学 / 宇宙航空研究開発機構)		

3月20日(金) 午後・H会場		3月21日(土) 午前・H会場	
13:30	W118a Suzaku/WAM で観測されたガンマ線バーストの数値計算による到来方向決定とスペクトル解析の系統誤差 藤沼 洸 (埼玉大学)	09:30	W129a ガンマ線バーストを用いた初期宇宙探査計画 HiZ-GUNDAM の進捗(4) 米徳大輔 (金沢大学)
	W119c 硬 X 線偏光検出器 PoGOLite 気球実験:2016年の再フライトへ向けて 高橋弘充 (広島大学)	09:42	W130a 小型科学衛星 HiZ-GUNDAM 搭載を目指した X 線撮像検出器の開発(2) 吉田和輝 (金沢大学)
13:42	W120a 超小型衛星 TSUBAME の打ち上げと運用 栗田 真 (東京工業大学)	09:54	W131a 軟X線から硬X線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画 NGHXT 森 浩二 (宮崎大学)
13:54	W121a CALET ガンマ線バーストモニター開発の現状報告5 瀬沼一真 (青山学院大学)	10:06	W132a NGHXT で狙うブラックホールのサイエンス 上田佳宏 (京都大学)
14:06	W122a 小型衛星用ガンマ線バーストの硬 X 線偏光計の開発と現状 中森健之 (山形大学)		W133c NGHXT で狙う超新星残骸のサイエンス 馬場 彩 (青山学院大学)
14:18	W123a X 線偏光観測衛星 PRAXyS 玉川 徹 (理化学研究所)	10:18	W134a NGHXT に搭載する広帯域X線撮像分光器 鶴 剛 (京都大学)
14:30	W124a PRAXyS 衛星搭載に向けた光電効果型ガス偏光計の性能評価 窪田めぐ (理化学研究所 / 東京理科大学)	10:30	W135a 次世代衛星搭載 CCD 高速低雑音処理 ASIC の開発 中嶋 大 (大阪大学)
14:42	W125a SPring-8 によるマイクロパターンガス偏光計の詳細な性能評価 北口貴雄 (理化学研究所)	10:42	W136a 炭素繊維強化プラスチックを用いた次世代 X 線望遠鏡の開発 前島将人 (名古屋大学)
14:54	W126a ダークバリオン探査ミッション DIOS 開発の進展状況 山崎典子 (宇宙航空研究開発機構)	10:54	W137a 補償光学望遠鏡の改良 北本俊二 (立教大学)
15:06	W127a ダークバリオン探査衛星計画 DIOS 搭載 4 回反射型 X 線望遠鏡の大口徑反射鏡開発 馬場崎康敬 (名古屋大学)	11:06	W138a 鉄 K α 線エネルギー帯における大有効面積 X 線望遠鏡の開発 吉川 駿 (名古屋大学)
15:18	W128a TES 型 X 線マイクロカロリメータアレイの周波数分割読み出しの開発現状 酒井和広 (宇宙航空研究開発機構)		

W2. 飛翔体観測機器

3月19日(木) 午前・H会場		3月19日(木) 午後・H会場	
10:54	W201a LiteBIRD 計画の現状 羽澄昌史 (高エネルギー加速器研究機構 / カブリ IPMU)	13:30	W211a 強度相関を用いた超長基線干渉計について 松尾 宏 (国立天文台)
11:06	W202a CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD における系統誤差の研究 V 永田 竜 (高エネルギー加速器研究機構)	13:42	W212a 「あかり」 IRC 指向観測撮像データの公開 江草美実 (宇宙航空研究開発機構)
11:18	W203a 宇宙マイクロ波背景放射観測衛星 LiteBIRD に向けた多素子超伝導共振器カメラの開発と低雑音化 唐津謙一 (国立天文台)	13:54	W213a 次世代赤外線天文衛星 SPICA : 日欧共同詳細検討結果 芝井 広 (大阪大学)
11:30	W204b LiteBIRD 衛星搭載広視野光学系の評価 岡田 望 (大阪府立大学)	14:06	W214a SPICA 搭載 中間赤外線観測装置 SMI : 衛星計画変更への対応 金田英宏 (名古屋大学)
11:30	W205b 宇宙観測用接合型 Ge 遠赤外線検出器のアレイ化に向けた物理パラメータの決定 花岡美咲 (名古屋大学)	14:18	W215a WFIRST/AFTA Coronagraph (WACO) 田村元秀 (東京大学 / 国立天文台)
11:30	W206b シリコン基板に保持されたゲルマニウム Blocked Impurity Band 型遠赤外線検出器の開発 公地千尋 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)	14:30	W216a 瞳再配置型位相マスクコロナグラフの提案 村上尚史 (北海道大学)
11:42	W207b SOLAR-C 光学磁場診断望遠 (SUVIT): 高精度偏光分光観測に向けた面分光装置と近赤外線カメラの性能と課題 勝川行雄 (国立天文台)	14:42	W217a 系外惑星直接観測のための Speckle Area Nulling を用いたダークホール制御 大矢正人 (日本大学 / 国立天文台)
	W208c 次期太陽観測衛星 SOLAR-C 搭載大型光学望遠鏡の望遠鏡部検討進捗 末松芳法 (国立天文台)	14:54	W218a Nano-JASMINE と小型 JASMINE の進捗状況の全体的概要 郷田直輝 (国立天文台)
	W209c SOLAR-C 偏光分光観測装置 SUVIT Spectro-Polarimeter 原 弘久 (国立天文台)	15:06	W219b 小型 JASMINE の進捗状況 矢野太平 (国立天文台)
11:42	W210b 超高コントラスト系外惑星直接撮像のための非対称ナル干渉法とダークホール制御 西川 淳 (国立天文台)	15:06	W220b 小型 JASMINE 光学系の詳細な熱歪み解析 鹿島伸悟 (国立天文台)
		15:06	W221b 小型 JASMINE 衛星の熱環境実証試験 白旗麻衣 (国立天文台)
			W222c 小型 JASMINE で解明を目指す巨大ブラックホールの進化 辻本拓司 (国立天文台)
		15:18	W223a Nano-JASMINE データ解析の準備状況 山田良透 (京都大学)

X. 銀河形成

		3月20日(金) 午前・E会場	
15:30	W224b 撮像実験による超小型赤外線位置天文衛星 Nano-JASMINE の光学系性能の評価 原 拓自 (東京大学)	09:30	X01a 赤外線天文衛星「あかり」で探る、 $z \sim 0.8$ の銀河の PAH 放射強度の環境依存性 村田一心 (宇宙航空研究開発機構)
	W225c Nano-JASMINE の現状と微小光源像の再測定 小林行泰 (国立天文台)	09:42	X02a 表面測光による $z \sim 1$ の楕円銀河の詳細な形状分析 満田和真 (東京大学)
15:30	W226b 宇宙赤外線背景放射の観測のためのロケット実験 CIBER-2 白旗麻衣 (国立天文台)	09:54	X03a $z \sim 1.4$ の星形成銀河における分子ガスの性質 世古明史 (京都大学)
	W227c 気球 VLBI ミッションの検討 IV 土居明広 (宇宙航空研究開発機構)	10:06	X04a Dynamical mass から探る遠方銀河のガス質量 太田耕司 (京都大学)
		10:18	X05a 赤方偏移 $z \sim 1.5$ の星形成銀河における星間ガスの物理状態 林 将央 (国立天文台)
		10:30	X06a 超大質量ブラックホール周辺銀河の特性 白崎裕治 (国立天文台)
		10:42	X07a 赤方偏移 3.3 での巨大ブラックホール - 母銀河質量比計測で探る共進化 川口俊宏 (国立天文台)
		10:54	X08b $z \sim 3.3$ QSO 補償光学撮像データを用いた母銀河光度・質量の推定 濟藤祐理子 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)
		10:54	X09b $0 < z < 2$ における銀河のガスの割合の進化: 観測とモデルの比較 諸隈佳菜 (国立天文台)
		10:54	X10b ライマンアルファ輝線銀河の SED の多様性 後藤亮介 (東京大学)
		11:06	X11b 宇宙論的銀河形成モデルによる数値銀河カタログの構築 真喜屋龍 (東京大学)
		11:06	X12b Can we predict dust extinction of galaxies from $H\alpha / UV$ ratio? 小山佑世 (宇宙航空研究開発機構)

11:06	<p>X13b $z \sim 4-7$ 星形成銀河のクラスタリング解析とダークハロー質量 播金優一 (東京大学)</p> <p>X14c Properties of large scale structures at $z \sim 1.6$ in COSMOS 柏野大地 (名古屋大学)</p> <p>X15c 銀河進化における UV 減光とダストのジオメトリー 日下部晴香 (東京大学)</p> <p>X16c 銀河形成最盛期にある星形成銀河の統計的サンプルの構築 山元萌黄 (総合研究大学院大学)</p> <p>X17c ハーシェル宇宙望遠鏡による原始銀河団探査 III -2QZ cluster- 加藤裕太 (東京大学)</p> <p>X18c 銀河系球状星団系の力学進化史と初期状態への制限 鈴木雄太 (東北大学)</p> <p>X19c 銀河系及びアンドロメダ銀河に付随する矮小銀河のダークハロー構造 林 航平 (東北大学)</p>	<p>3月20日(金) 午後・E会場</p> <p>13:30 X20a SXDF-UDS-CANDELS-ALMA 1.5 arcmin² deep survey: I. The survey description and source catalogue 河野孝太郎 (東京大学)</p> <p>13:42 X21a SXDF-UDS-CANDELS-ALMA 1.5 arcmin² deep survey: II. The photometric redshift survey of 1.1 mm sub-mJy sources 山口裕貴 (東京大学)</p> <p>13:54 X22a 多様性から二面性への銀河進化と quenching 市川 隆 (東北大学)</p> <p>14:06 X23a 赤方偏移 2 の大質量星形成銀河および受動的進化する銀河の形態 館洞すみれ (総合研究大学院大学)</p> <p>14:18 X24a 光度関数と Ly α 等価幅分布で探る $z=2.2$ Ly α 輝線銀河の統計的性質 今野 彰 (東京大学)</p> <p>14:30 X25a A comparison of Lyman continuum of population synthesis models and their difference in emission lines of galaxies 井上昭雄 (大阪産業大学)</p> <p>14:42 X26a 将来計画 JWST, TMT, WISH に向けた様々な高赤方偏移銀河の輝線検出可能性 清水一紘 (東京大学)</p> <p>14:54 X27a 数値シミュレーションで探る遠方 [CII] 光度関数の赤方偏移進化 早津夏己 (東京大学)</p> <p>15:06 X28a 再結合光子を考慮した再電離輻射流体シミュレーション 田中 賢 (筑波大学)</p>
-------	---	---

Y. 天文教育・その他

3月21日(土) 午前・E会場		3月19日(木) 午前・F会場	
09:30	X29a New Numerical Galaxy Catalog (ν^2 GC) Model. VI. Cosmic Near-Infrared Background Radiation 小林正和(愛媛大学)	09:30	Y01a ストラッペの生涯と業績 渡辺憲昭(千葉商科大学商経学部)
09:42	X30a ALMAで迫るmm波帯宇宙赤外線背景放射の起源 藤本征史(東京大学)	09:42	Y02a 時の記念日と1920年に開催された「時」展覧会について 井上毅(明石市立天文科学館)
09:54	X31a CIBER実験による宇宙赤外線背景放射のゆらぎ検出 松浦周二(宇宙航空研究開発機)		Y03c 新城新蔵の宇宙進化論の理論的基礎に関する実証的研究 株本訓久(武庫川女子大学)
10:06	X32a 大規模再電離シミュレーションの為にサブグリッドモデルの開発 長谷川賢二(名古屋大学)	09:54	Y04a 超天文素人母による天文教育についての考察 富田朝木(ひが企画)
10:18	X33a $z=3.09$ の非常に高密度な銀河群の発見 久保真理子(東京大学)	10:06	Y05a 小中学校の天文教育の中で宇宙開発を教える機会について 中野多恵(九州工業大学)
10:30	X34a すばるHyper Suprime-Camによる $z \sim 5$ 原始銀河団候補 玉澤裕子(東京大学)	10:18	Y06a 新指導要領のもとでの「光とスペクトル」の取り扱い 貴村仁(大阪教育大学)
10:42	X35a 弱い重力レンズ効果による銀河スケールの質量分布探索への展望 小林将人(名古屋大学)	10:30	Y07a ブラックホールを題材にした天文教育ネットワークの形成へ 大西浩次(国立長野高専)
		10:42	Y08a 仙台で行ったパークス64m電波望遠鏡の高校生対象の遠隔観測について 亀谷収(国立天文台)
		10:54	Y09b 次期学習指導要領における高等学校必修総合科目設置の検討 松本直記(慶應義塾高等学校/国立天文台)
		10:54	Y10b 高校生天体観測ネットワーク: 皆既月食観測とその成果 塚田健(平塚市博物館)
		10:54	Y11b 西はりま天文台での高校生・大学生の天文実習 高木悠平(兵庫県立大学西はりま天文台)
		11:06	Y12b 天体の日周運動と年周運動の理解を促進する教材の開発(2) 濤崎智佳(上越教育大学)

11:06	Y13b	夜空の明るさ測定における Sky Quality Meter の有効性検証 小野間史樹 (星空公団)	14:30	Y25b	TMT における国際的な教育・広報・普及活動の検討状況 青木和光 (国立天文台)
	Y14c	ルミネーションによる恒星の色再現 松本 桂 (大阪教育大学)	14:30	Y26b	ケンブリッジ大学を舞台に含めた天文教育プロジェクト 藤原智子 (九州大学)
	Y15c	自作分光器による太陽の自転速度の測定について 坂江隆志 (埼玉県立浦和西高等学校)		Y27c	天文学者の地理的分布 藤沢健太 (山口大学)
11:06	Y16b	茨城大学太陽観測システムプロトタイプ 野澤 恵 (茨城大学)	14:30	Y28b	国立天文台野辺山における地域連携事業の紹介 衣笠健三 (国立天文台)
11:18	Y17a	原始星形成直後の星周円盤の構造 塚本裕介 (名古屋大学)	14:42	Y29a	紀美野町みさと天文台における地域住民と取り組む広報普及活動とその効果 矢動丸 泰 (紀美野町みさと天文台)
	Y18c	宇宙背景放射偏光揺らぎと原初磁場 山崎 大 (国立天文台)	14:54	Y30b	芸術作家は宇宙・天文分野に何を期待したか：天文台での作品制作・展示 玉澤春史 (京都大学)
3 月 19 日 (木) 午後・F 会場					
13:30	Y19a	ドーム型スクリーンに投影する天体画像への臨場感・没入感に関する研究 - 2- 恵まれた星空環境に属する視聴者に、デジタルデータの星空はどのように評価されるのか 松岡葉月 (国立民族学博物館)	14:54	Y31b	美術館での宇宙展示企画、「宇宙を見る目」の試み 大西浩次 (国立長野高専)
	Y20c	磁場の 3 次元可視化モデルの製作 當村一朗 (大阪府立大学工業高等専門学校)			
13:42	Y21a	素核宇宙多機関連携プロジェクトの広報 吉戸智明 (筑波大学)			
13:54	Y22a	IAU アウトリーチ室 (OAO) の活動とその課題 - IAU100 周年に向けての提言 - 縣 秀彦 (国立天文台)			
14:06	Y23a	100 回を迎えた愛知教育大学天文台一般公開 沢 武文 (愛知教育大学)			
14:18	Y24a	「ひので衛星といっしょに太陽を観測しよう 2014」の実践とその結果について 矢治健太郎 (国立天文台)			

2015年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	宮田隆志	(東京大学)
委員	久保雅仁	(国立天文台)
	左近樹	(東京大学)
	佐藤文衛	(東京工業大学)
	鈴木知治	(中部大学)
	田中邦彦	(慶應義塾大学)
	寺田幸功	(埼玉大学)
	土居明広	(宇宙航空研究開発機構)
	峰崎岳夫	(東京大学)
	中道晶香	(京都産業大学) 保育室担当

年会開催地理事

	林田清	(大阪大学)
--	-----	--------